



東田四郎
博士の教

東田四郎
博士の教
英法高法歴史
著
第一巻
第一冊
用
紙

東田四郎

1595



114
A 3098



序

抑々今ヨリ一百年前以降英國商法上ニ関セル
 事情之ヲ学ニテ利益アル者實ニ枚挙スルニ
 遑アラズ然レモ世未タ之ヲ編纂シテ以テ一
 正史トナス者アルヲ見ス蓋シマクファルリン
 氏及ヒアンダルトン氏カ書ノ如キハ至テ大部
 ナレモ要スルニ英國貿易ノ編年録タルニ過ス
 固ヨリ呼テ正史ト為ス可クナルナリ加フルニ
 彼書未タ商業ノ實價ヲ社會上ニ現ハサ、ルノ
 時ニ當テ既ニ女局ヲ結ヘリウウク氏カ著述セ

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

ル物價歴史ノ如キモ其実貴フニ足ルハト呈
ス懃ラリハ言ニ物價轉動ノ実跡ヲ載スルニ過
ス左モ凡テ英國ノ諸歴史皆ナモ少ク商法ノ履
歴ニ涉ラザル者^{ナラ}然リト呈モ其種々ノ發明
及ビ新工凡ノ如キ曾テ英國百工ノ進歩ヲ助ケ
タルノ大ナル一又其政畧上及ビ經濟上ニ関セ
ル事情ノ読々相踵テ以テ之カ商法及ビ航海ノ
便益ヲ助ケ若リハ傷害シタルノ事キ一或ハ時
々貿易上及ビ金錢上ノ窮厄ヲ来タシ以テ公衆
ノ信用ヲ失キタルノ甚シキ。或ハ火船氣車及

口電信機ノ力ヲ以テ外國友業ノ精神ヲ活起セ
シ一及ビカリフオルニヤ利益ニオウストウリ
ヤ洲ニ於テ金鑛發見等ノ事ハ其要実ニ大ニシ
テ皆ナ存シク英國々史ノ大論題タルヘキノミ
ナラス尚ホ自ら獨個專有ノ史^傳ヲ為スヘキ者
ナリ然リ而シテ以上掲ルカ如キ者愈々其勢力
ヲ振テ以テ英國百工ノ景況ヲ一新スルニ至リ
シマテノ間々各々反對論者ノタメニ抗拒避絶
サレ、或アリテ其少危険ヲ冒シ艱苦ヲ経ナル
者ナシトス而シテ今能リ之ニ克テ以テ遂ニ其

大功ヲ奏スルニ至ラシメタル処ノ諸儀及ヒ方
術ヲ登録シ又之カタメ曾テ昼夜精神ヲ凝ラシ
勇年心カヲ駆役シタル人智進達ノ先駆者又万
庶ノ大恩人トモ稱スベキ諸豪傑カ功蹟ヲ記載
スルノ舉ハ實ニ百世不朽ノ美事ナリト稱スル
モ敢テ過タリト爲ス可ラス

今此書ノ主眼トスルハ即チ英^{II}國商法ノ履歴
ヲ記載スルニ在リト呈モ其沿革數段落ノ首尾
ニ於テ或ハ他國商法ノ景勢ニ移^輪論スルコトアリ
是レ即チ凡テ經濟ノ大義 曾テ時代ト場処ト

ヲ限ル者ニ非ス又學術ノ功業ハ決シテ一國ノ
獨有物トシテ專占スキ者ニアラサルカ故ナリ
蓋シ之カタメ嘗ニ英吉利斯^{II}一國ノミナラス併
セテ他國商法上一般ノ經驗ヲモ構習スルノ便
ヲ得ヘリ且ツ若シ他國ノ政事家或ハ會計官々
ル者ノ一タビ之ヲ読了スルトキハ則チ英國ヲ
シテ其地位ヲ今日天下ニ占有スルニ至ラシメ
タル者ハ決シテ貿易ヲ制限シ産業ヲ阻攔シ或
ハ性法ニ戾テ事ヲ行ヒタルカ故ニ非ス却テ人
間天稟ノ精カヲ伸張スルノ道ニ横ハレル処ノ

著者辣ラハ務メテ其除却去シタルニ依レルヲ
曉ルレシ加旃ナラズ五十年未英國政府ノ專務
トナシタル如ク凡テ通商貿易ノタメニ最大ノ
自由ヲ与ヘ及ヒ之カガ至極ノ安全ヲ保スル
ニ在ルヲ見ルヘシ

余此書ヲ編纂スルニ當リ曾テ其材料ニ乏シク
又参考ノ書ニ欠ケタルヲ覺エ

又其故ハ

汝議會委員雜報ノ至ラザル如キアリ又
審盜官報告ノ尽シテ残サ、ル者アリ加フルニ
ハシガルト氏カ村論誌、曾ニ其論ノ沸起セル

毎ニ必ズ之カ顛末ヲ細記セリ又其經濟上
ノ事實ニ涉リテハ即チ經濟雜誌ノ之ニ當ルア
リ其外交ノ情態ニ及ニテハ即チ各國ニ遺差サ
レタル公使及ヒ領事附屬書記官カ報告書アリ
其他前ニ掲ル如ク諸著述書並ニ各社党内ノ秘
藏ニ信ル如ク諸記録ニシテ於テ世ニ公行スル
者歟カラズ此等ハ實ニ此書編ノ綱領緒端ニシ
テ余固ヨリ就テ万謝ヲ施スヘキナリ
蓋シ夫レ英國高法沿革ノ題目タルヤ莫ニ洪大
ニシテ狭小此書ノ如キ終ニ其堅固ヲ舉ルニ過

又故ニ格段一商業ノ昇沈ニ至テハ或ハ之ヲ録
シ或ハ之ヲ省キ到底其定然存一ヲ得ル能ハス
且ツ物價時々変動ノ如キモ唯往々之ヲ暗示ス
ルノミナリ焉ニツ又法リ英國ノ諸方開明郎達
固ニ徘徊シテ貿易スルノ情態如何ヲ見テ之ヲ
細回ヲ挿ムノ隙アリニヤ然レモ其年号及ヒ議
論ノ大結ニ於テハ務メテ精細ヲ究ム或ハ又他
書ヲ引松スルトキハ必ス其出ルル所ヲ示レ且ツ
其引松スルル処都テ信憑スルニ足ルベキ者ノ
ヲ扱ヘリ偏ニ希フ余カ英國高法歴史若シ我國

最大利益ノ一事物カ正傳
トナシテ會計官及
ヒ经济学家カ々メノ鑑鑑トナリ諸方ニ出カ
英國商人カ々メノ油珍トナリ及ヒ改革経済両
字徒弟カ々メノ講習書トナリテハ其高キ實際
ニ利益スルル処アレハ余ニ於テ幸又ヨリ甚シ
キハナシ

レオンレウガ新識

フアラース、ヒルチレケ
テムポル

千八百七十二年一月

英國高法史目錄

第一卷

(十七百六十二年ヨリ十七百七十二年マテ) 七年間
七年間ヨリ十七百七十二年マテ
七年間ヨリ十七百七十二年マテ
七年間ヨリ十七百七十二年マテ

第一回

英國百工ノ創始
(十七百六十二年ヨリ十七百七十二年マテ) 二十年間

第二回

英國々計ノ事
(十七百六十二年ヨリ十七百七十二年マテ) 二十年間

第三回

七箇年争乱ノ後英國高法ノ景况
(十七百七十二年ヨリ十七百七十八年マテ) 六年間

第四回

米國大改命ノ事附英米戦争ノ事
(千七百八十四年ヨリ
千七百八十二年マテ 十八年間)

第五回

ピットカ平和政畧
(千七百八十三年ヨリ
千七百九十三年マテ 九年間)

第二卷

(仙國大改命ノ日ヨリ
渡シノ停止ヲ解クノ時マテ)

第一回

佛國大改命ノ事
(千七百九十二年ヨリ
千八百二十年マテ 二十八年間)

第二回

歐羅巴大陸争乱ノ事附
(千七百八十八年ヨリ
千八百一十二年マテ 三十四年間)

第三回

英佛兩國ノ軍事統計
(千七百九十三年ヨリ
千八百一十二年マテ 二十年間)

第四回

内閣協議ノ事
(千七百九十二年ヨリ
千八百一十二年マテ 二十年間)

第五回

外國交易ノ事附金價騰貴ノ源由ヲ
探鑿セシメ爲メ委員ヲ設ケラレタ
ル

第六回

現錢拂渡ノ停止ヲ解キタル事
(千八百一十年ヨリ
千八百一十年マテ 七年間)

第三卷

(ハスキツソン氏カ政事改革ノ時ヨリ
サルバト、ピール氏カ執政ノ日マテ)

第一回

(千八百二十年ヨリ二十二年間)
諸商人ノ歎願ノ事
(千八百三十年)

第二回

ハスキツソン氏商法改正ノ事
(千八百二十三年ヨリ
千八百二十五年マテ 二年間)

第三回

商法上大危急ノ事
(千八百二十五年ヨリ
千八百二十六年マテ 一年間)

第四回

主僕ノ関係
(千八百二十四年ヨリ
千八百三十年マテ 六年間)

第五回

會計ノ事附銀行ノ事
(千八百三十年ヨリ
千八百三十四年マテ 四年間)

第六回

通運便宜ノ事
(千八百三十年ヨリ
千八百四十年マテ 十年間)

第七回

穀例ノ事
(千八百一年ヨリ
千八百四十年マテ 三十九年間)

第八回

商法上大危急ノ事
(千八百三十六年及
千八百三十九年)

第九回

英国、印度支那地方トノ関係
(千八百二十年ヨリ
千八百四十年マテ 二十年間)

第十四回

殖民地通商ノ事

(千八百四十七年ヨリ
千八百五十五年マテ 五年間)

第四卷

ワルバルト、ピール氏カ執政ノ日ヨリ
千八百五十七年商法上大危急ノ時迄

第一回

ワルバルト、ピール氏カ商法改革

(千八百四十一年ヨリ
千八百五十年マテ 九年間)

第二回

銀行成例

(千八百四十四年ヨリ
千八百五十年マテ 一年間)

第三回

穀例及航海例廢止ノ事

(千八百四十六年ヨリ
千八百四十九年マテ 三年間)

第四回

商法上ノ大危急

第五回

(千八百四十七年
万国博覧會ノ事)

第六回

カルフダルニヤ州及オウストラリ

ヤ洲ニ金鑛發見ノ事

(千八百四十七年ヨリ
千八百五十年マテ 四年間)

第七回

商法例ノ事

(千八百五十年ヨリ
千八百五十二年マテ 九年間)

第八回

クラッドストン氏經費表ノ事

(千八百五十二年)

第九回

魯國戰争ノ事

第九回

(文五十四年ヨリ
文五十六年マテ 二年間)
東洋通商ノ事

第十回

(文五十五年ヨリ
文五十七年マテ 二年間)
商法上大危急ノ事
(文五十七年)

第十一回

英例通商盟約結了ノ日ヨリ
(文七十年ノ商法上景況ニ至ル)

第十二回

(文六十年ヨリ
文七十年マテ 十年間)
通商盟約ノ事
(文六十年)

第十三回

米国内乱ノ事

第十四回

(文六十一年ヨリ
文六十四年マテ 三年間)
商法上大危急ノ事
(文六十六年)

第十五回

巴利士大博覽會ニ於テ英國百工ノ事
(文六十七年)

第十六回

國際度量及通商ノ事
(文五十二年ヨリ
文六十七年マテ 十五年間)

第十七回

商法諸國開進ノ比較
(文六十年ヨリ
文七十年マテ 十年間)

第七回 英国商法ノ景況

一七八七年

附録 畧

英国商法歴史卷之一

第一回 (千七百六十三年ヨリ 十三年間)

○英国百工ノ祖始

戦争及々之カ餘響。英国一般ノ景況。

○製棉機ノ事。製棉機ノ用并ラレシキ
 リノ事。毛織製造ノ景況。製糸ノ景況。

次附英例製糸ノ事。製布ノ事。

鉄及ヒ石炭ノ事。陶器製造ノ事。蒸
 氣機関ノ事。金銀ノ事。技術社
 及私文藝館ノ事。ピヤルノ事。王家イキスナ

アーンヒ(為替坐)及、ケリス、ム学校
創業及廢類ノ事

戦争及ヒ之カ余響^響今ヨリ殆ト一百年以前
ニ当テ英国復々更ニ一戦争ノ局(巴利斯ノ平和
盟約)ヲ指スナリ)ヲ結ヒタリ蓋シ~~車~~時戦争時
^響英国ノ常トスル如ニシテ其結果ニ至テハ喜
悦失望ノ相半ハセル者殊ニ多ナリシカ今日竟
ニ如ル事ヲ免ルニ至リタルハ實ニ喜ブヘキ
ナリ嗚呼勝利ハ危険ニ稀ナル使得コトテ恰
モ蜂蟻ノ如ク觸シントスレハ忽チ其政ヲ失ヒ

軍火ノ如ク其送カニ煌々タルモ近寄りテ之ヲ
捕ラレハ夫ナク又契ナシ古今此虚栄ノタメニ
欺カレ、ノ国勢カラズ實ニ惘然ニ堪ムナルナ
リ却視此時既に仙蘭西ハ加那リヨリ排攘サ
レ西班牙ハ其大切ナル殖民地ヲ失ヒ英独リ此
亞米利加全洲ノ中ニ卓植シテ以上二箇国ノ失
フ如ク収メタリ如ク其栄誉ヲ博取シタル
国天ヲ輝カシメタル果シテ大ナリト星モ今他
方ニ於テ常ニ戦争ノタメ^(一)負債ヲ起シ国民ノ
産業ヲ傷害シ甚シキニ至テハ終ニ一國ノ性命

ヲ絶つニ至ルモ計リ難キ者アルハ又恐ルヘキ
ナラズヤ而シテ此時ニ及テ急ニ租税ヲ重ク
シ民ノ血膏ヲ搾ルニ過エハ人必ス以前ノ栄誉
ヲ忘レ怡モ虚夢ノ覺タル心地センナリ又驚クニ
至ラサルヘシ加旃ナラズ戦争スラ自ラ女會ヲ
上ヨリ之ヲ計算スルハ決シテ充分ノ報酬ヲ未
タサハルヲ見ルヘシ右モ境ヲ界シ地ヲ掠ルト
キハ別々此ニ毎テ強民シ或ハ置業スルノ道ヲ
開クヘキナリ怡モ亞米利加廣漠原ノ新ニ各國ノ
タメ世余分ノ勢力及ヒ産業ヲ擴張スルノ地ヲ

開キタルカ如ク然リ而シテ各國皆テ天賦ノ際
限ヲ女界境上及ヒ資力立ニ有シテ容易ニ之ヲ
踰ルナラザレバ得ヘカラスナル者ナリ況ンヤ本國ノ産
業未タ五々サレ者ニ於テテヤ殊ニ女内ヲ捨テ
漠々タル太西洋万里ノ外ニ越カント欲スル者
實ニ女本ヲ忘ルノ甚シキト云フヘキナリ武
ニ女頃英國ノ政勢ヲ顧ヨ未タ(一)住民ノ女國內
ニ充滿シテ仍ホ餘レルヲ見ス然ル(二)太西洋万里ノ外
ニ於テ放遺スヘキ資本ニ且レル者アルヲ聞カ
ス而シテ其(三)將來ニ期スヘキ如何計リナリ

モ女実益、猥ホ今回新々ニ掠奪シタル
 四境ヲ防禦セシメカクハ費用シテ
 (三) 空原ノ

註

(一) 千七百五十六年ヨリ千七百六十三年マ
 テノ間七箇年戦争ノ夕人ニ費シタル英國
 ノ惣入費ハ八千二百六十三萬三千七百三十八
 英國及ヒ阿卑蘭土ノ国債共額ハ二七百五
 十六年ヨリ千七百六十三年マテ七箇年ノ
 間ニ女高七千四百五十七萬五千二百九
 一億三千三百七十一萬六千四百九十九
 三二七六零四九ホンドマテニ至シリ(即

五千八百十四万五千二十四ポンド

千女差五八一四一零二四ナリ) 千六百八十
 八年ヨリ千八百六十九年下院報告第三百
 六十六号卷ノ#七百八葉ヨリ八百二葉ノ
 間ニ見ユ

(二) 洗礼録死亡録及ヒ婚姻録ニ依テ計算ス

レハ千七百五十年英國ノ人口九万六千五百一
 十一万七千七百六十三年ニ至テハ
 殆ント七百万ニ達シタリト云フ即チ十三
 年間ニ女増加スル知殆ント五十万ニ近シ
 (千八百四十一年ノ
 統計表小引ニ依ル)

(三) 此時新タニ英國版圖ニ加ハリタル地ハ
西加那夏トミニカ、グレナダ、及びセント、ウ

イ、セントナリ

英國一般ノ景況

夫レ國權上ニ於テハ英國ノ
名當時世界ニ顯ハシ殊ニ七箇年争亂ノ後ニ至
テ全ク天下ニ冠タリシモ、翻ワテ之カ経済上ノ
情態ヲ顧レハ尚ホ微々タル者ニシテ、女百工ノ
如キモ決シテ賞嘆スルニ足ラザリキ、女頃マニ
十工スタルハ、僅ニ内地ノ一邑ニシテ海岸ヲ隔
ル數程未タ今日ノ華商ヲ至スノ兆ヲ現ハサス

今日ノ如キ

又、烟筒ノ高ク連リテ、炊烟ノ常ニ絶エサルヲ見
ス、棉ノ如キモ唯々僅カク花剪絨、朱纒及ヒ斜紋
布ヲ製造スルカタメ、女小量ヲ費用セシノミ、女
商人ハ、竜動府ニ到リテ、サイ、プ、ラ、ス、及ヒ、ス、マ、
ル、ナ、ヨ、リ、此、ニ、到、来、セ、ル、未、制、品、ヲ、求、メ、此、ヨ、リ、船
ニテ我地ニ運ヒ還リタリ、又、(四)リ、ウ、井、ル、プ、
モ、女、頃、ニ、ハ、未、タ、今、日、之、カ、栄、ト、ナ、ス、如、ノ、造、船、場
ヲ、有、ス、ル、ト、甚、タ、少、ナ、ク、曾、テ、米、船、ノ、女、港、内、ニ、碇
泊、ス、ル、ヲ、見、サ、リ、キ、女、商、業、モ、僅ニ微々タル者ニ
テ、刺、工、之、カ、大、部、ハ、彼、殘、積、ナル、商、業、即、チ、亞、弗、利

加^カリヨリ奴隷ヲ擄エ西印度ニテ之ヲ賣買スル
ニ係リ而シテ後商業ノ盛ナレハ却テ慘クハ
キ一ナリキリツ及ヒフラツゴフオルドノ如
キモ未^レ盛^ク大ニ至^ルス最モ首冠タル^(五)竜動^(四)府
スラ維^ト殆^トニト當時英國ト外國トノ通商ハ全
ク之カ專有ニ属セシカ如キモ彼テエリス河ノ
兩岸ニハ今日見ルル船航十分ノ一ニタモ見
ルコトナク又都府ノ大サモ僅ニ女城壁内ニ銘
居セルヲ以テ其實曾テ羅馬人種カ遺セシルニ
過ルル^知ナレ而シテ女人口總ニ五十万計リニシ

テ竜動トサウスウパークノ間ニハ嘗ニ一架ノ
橋ヲ通スルノミナリキ蓋シ「英吉利新銀行」星
天有ルヲ如ク毎キカ如ク微カニ寺院ノ隙ニ踞
坐ニケリ又彼ロヤル^{イキスヤン}為^ハ機^ハ堅^ハハサアトウマス、
シスハム氏カ建築ニ係ル者ノ破顔サレタレ
跡ニ再營サレシ者星ナリ然レ氏後々復々千八
百三十八年ノ火災ニ罹リタリコトハ高ホア
ブナルナ小街ノ一隅ニ寄レル一ウノ茶房ニ
過スシテ固ヨリ當時所稱ル^{スト}股份^ク賣買^イナル者ナ
ク又全府中一ウノ造船場タモ十カリキ港口ハ

群小ノ商船之ヲ壅塞シテ出入甚々便ナラス波
止塲ニハ包仔箱櫃及ヒ袋囊ヲ散乱シテ混雜莫
ニ極リナリ要スルニ今日電報府ヲ成スル大
鐘巨桑ハ一モ此時ニ存スルヲナカリシナリ然
レモ獨リ英國カ古今相ト変ラヌ固有スル如ハ
即チ近ク歐羅巴大陸ニ接シ廣ク亞米利加ノ大
通路ナル大西洋ニ依リテ海上通商ノタメニハ
毎二ノ好要地位ヲ占タルト莫大ナル鑛物ニ富
メルト特ニ世界第一等ト稱スヘキ獨立自由ノ
精心ニ富ミ剛氣撲マヌ十幸屈セヌ勇氣逞ツシ

テ莫益ヲ重シ最モ殖民者及ヒ發見者ニ適シ
タル能カク兼備シタル英塞信人種ノ此ニ居ル
トノ三者ナリ蓋シ以上三者ヲ具備シタル英國
ニシテ種々ノ艱厄ニ克テ様々ノ危險ヲ冒シ古
今万国ニ比美ナキ速度ヲ以テ遂ニ今日世界第
一等ノ位置ヲ商業上及ヒ航海上ニ專占スルニ
至リタルハ又惟々ル且ラサルナリ

註(四)千七百三十三年ニリケルブールノ人
口ハ三万四千ニシテ僅ニ三個知ノ浮キ造
船場ト稱ク二三隻ヲ容ルヘキ小造所三個

知小柄大ナル者一個知トノミヲ有シタリ
 彼府千七百七十五年ノ徳関稅高ハ二十七
 万四千ポンドニシテ日年中亞弗利加ニ向
 ヒ黒奴賣買ノタメニ同府ヲ出港セシ船廿
 九千二百墩ヲ積ムヘキモノ八十一隻ナリ
 キ又同年全府中終ニ一ノ書狀配達人アリ
 テ其信袋ハ馬ニテ市中ヲ往復セシトナリ
 (五)蓋シ竟勤府ハ往時ヨリ英國最大ノ商埠
 ナリシニヤ蚕クヘシト一亦二世ノ時ニス
 ラウキリヤム、フイワ、ステーブル、トナリ人ノ

之ノ採シタム悟ニ曰ク

- 亞拉比亞之金
- 塞細亞之利劍
- 支那之絹布
- 岩表俄貂
- 一、無不富焉
- 撒別之香
- 巴比倫之椰子膏
- 乃留之玉室
- 仙蘭西酒

製棉機ノ事 抑モ(六)木綿製造ノハ此頃々テ

未タ盛ニナセウサ~~ル~~者ナリシカ忽然有名ナリ
 工学者ルリウイス、ポールス、式ローレンス、アリ
 ニセヨ一式ハアケリーガス、式アーケライト、式

及ヒクロムア氏等数輩カ多年ノ苦慮ト非常ノ
才智トニ依テ實ニ驚クヘキ変革シ之カ性貨上
反ト**因果**上ニ現ハシタリ固ヨリ以上ノ數輩ハ
皆十製棉機定備ニ至ルノ途ニ於テ共ニ為ス
外アリテ今世果多ク果シテ某氏カ手ニ為リタ
シヤク確量スルヲ得難シ蓋シテ人智ノ又最上点
ニ達スルハ既ニアラハム氏カ去エル如ク漸進
ノ通義ニ依ル者ニシテ一人限りアルノ才力ヲ**及**
事物ノ定備ヲ一時ニ極ムル能ハス試ニ諸學術
ノ進歩ニ未タニ履歴如何ヲ顧ミヨ一トシテ此

通義ニ入ラサル者ヲ見サルヘシ(七)

曾テアラウク氏ヒプリストレ一氏カ隱契論
ト大氣論ニ於ルベクニ氏トアタムスニ氏
カ引推法ト経済学トニ於ルニウケル氏トワ
ツト氏カ寶石ノ理ト蓋氣論ニ於ル皆ナ一トシ
テ他ノ学ヲ知ナリシテ故ニ授テ各**其**唯一独有ノ
發明者アリシト思想スル勿シ彼ニウケトシ氏ス
ラ大算学及ヒ経済学ノ奥義ニ達シタリ**他**ノ能ク
之ニ匹敵スヘキニ非ルモ同シクカウアルナリ
氏ハバリーガアル氏ヲアルマ氏及ヒエウヤン氏

カ餘粕ヲ喫ル者ニ過キス案スルニ此等諸氏
既ニ殆シト柝分法ヲ發明スルニ達シ居タルナ
ラシ以上凡テ如斯シ然レモ今製棉機械ノ發明
加功ナル者女教我干ナルヤヲ問ハス又各女
為スル如何ヲ論セス遂ニ製棉ノ事ヲシテ僅ニ
一六手製葉ヌルヨリ廣ク機械ヲ以テ製造ス
キ者トナルニ至ラシトクシハ單ニ紡機刷機
水架及セミユル（紡機部）ノ發明者カカスルニ
テ今世ニ行ハル製棉機ノ始メテ設成シ大ニ
帝ヲ省キカリ分々併セテ精練ヲ得ヘリ監督ノ

便ヲ全フスヘキハ皆十此人位カ重贈ナリ加旃
十ラスラシカシヤイア全部ノ景況ヲ一変シ世
住民ヲシテ旧来ノ鋤鋤ヲ擲テ泥汚ノ農服ヲ脱
シ一層高尚活潑ナル製作工事ノ業ニ赴カシメ
タルハ同シ彼等ヲ致ス所ナリ
註 (六) 夫レ棉ハ新産ノ物品ニアラス凡テ暖カ
ナル土地ノ海ニ濱シテ乾砂多キ処ニ生シ
太古ヨリ支那印度白耳細亞埃及噶吐知
嚟ニ知ラレタリ又南亞米利加ノ初發見
サレタルトキニ此ノ棉花ヲ種工居タルヲ

見たり肥疔吾人種ハ棉ニテ製シタル者
以テ女頭髪ヲ結ビメキシユノ人民ハ至極
美丽ナル棉衣ヲ穿テタリ然レ氏人能ク之
ヲ謂フ如ク凡テ棉ヲ以テ女國ハ一商賣品
トナシニハ能ク女工術ニ依リ至奇ハ廉
價ナル其美丽且ク丈夫ニ之ヲ製造スルノ
國ニ非レハ能ハス即チ印度ノ如キハ殆ク
ト紀元七百年代ノ早時ニ於テ彼製木棉
ヲ以テ政羅巴ニ始シタリ蓋シ製木棉ノ
名ハ彼メトロポリタニヤニ住居セシ四々

教徒ヨリ来シルナラシ又アヒリヤ人種
内シク製棉ヲ政羅巴ニ齎ラシ之ト共ニ支
那ヨリノ絹帛印度ヨリノ毛氈及ヒ東洋諸
島嶼ヨリノ香料ヲ携エタリ出シ氏中古ノ
間ハ人々曾テ木綿ヲ以テ常衣ト為ス
ナク其現ニ英國ニテ費用スル処ノ棉ハ當
ニ娼心ヲ製セシカガノミニシテ其量極
メテ少ナク自國ニテ之ヲ製作セ
テ殆クト皆カ政羅巴大陸ニ仰キタリ左
モ千三百二十八年ノ早時代ニ於テフアン

タル人種ノ英國ニ来リマニエスタル木
綿ノ名ヲ以テ英國製衣棉ノ**基**ヲ創メタル
アリト始テ英國ヨリ政羅巴大陸ニ向テ木
綿羊綿花剪織斜紋等ヲ輸出セシハ抑モ下
ニ千六百五十年前後ナリ且ハ全ク木綿
ノミヲ以テ製造サレタル衣製品ノ出来セ
シハ近クシヨルニ昇三世即位ノ頃スニ未
タニヲ見ルニ至ラサリキ然ルニ忽然製衣棉
ノ英國第一等物産ノ一トナリタルハ實ニ
變化ノ甚シキ者ニテ單ニ皮驚クヘキ矣明

ノ為セル処ナリ是レ豈ニ責嘆セサルヲ得
ヘケレヤ

(七)千八百五十七年ケラサムニ於テニウト
ニ氏墓碑ノ開會ニ際シハルドアラハム氏
カ演説ノ中ニ出ウ

開衣棉播ノ世ニ容ラレサリし事抑モ製棉ノ大
変革ニ際シ最モ功蹟アリシハ皆ナ嘗テ門闕モ
ナク名望モナキ古ニ獨歩ノ人位ニシテ當時
ニ々モ後世ニ至テ人英國工業ノ進歩ヲ論スル
毎ニ必ス第一勳功ヲ將テ之ニ付典スヘキヲ知

ルニ由ナカリキ加旃ナラズ自ラ万世公衆ノ女
メニ最大ノ功徳ヲ施シナカウ現ニ狼藉暴挙ノ
酷報ヲ被リタル一冥ニ遺憾ニ堪サル所ナリ然
レ氏天下豈ニ獨リ此等ノ教氏ニナラシヤ凡
テ進路ノ先駆者及ヒ身ヲ以テ學術ノ犠牲トナ
スノ徒皆ナクニ等シキ惨苦ヲ受クル者ナリ且
レ冥ニ憐ムヘキノ至リナリ却テ彼製棉機ノ奈
明ナシ愈々輕便利徳アル法ヲ以テ木綿ヲ製造ス
ルノ道ヲ得タルノ世ニ知ラレヤ~~忽~~ナ此道
手製ヲ以テ業ト爲シ来リタル工夫ノ間ニ奇ル

ク猜忌ノ念ヲ生シ暴起相ヒ助ケテケイモク職
工場ニ乱入シ此ニ備エタル機~~械~~ヲ持テ悉
ク之ヲ微塵ニシタリ而シテ彼~~フ~~ラウクボルシ
旧法ニ固着セル紡織夫ノ如キハ高ホ以テ且シ
リトセス凡テ新發明ニ属スル所ノ紡車及ヒ之
ニ附属セル諸器械ヲ破壊シハルグリ~~ー~~ヴス氏
躬ウ之カタメニ脅迫サシテ終ニ其家ヲ去ルニ
至リタウ~~ア~~ク~~ラ~~ト氏モ亦奇村ヲ居シテ以
テ漸ク其害ヲ免シ~~又~~憫ムヘシク~~ロム~~アト
氏ハ既ニ紐立タル~~ミ~~ウ~~ル~~機~~名~~ヲ解散シ又屑~~片~~

ヲ砂中ニ埋藏スルニ至リタル一四ニシテ且
ラサリシト云フ如キ暴行ハ實ニ憎ムトシト
呈モ今ヲ去ル一百年以前上等社會ノ人位ト
呈モ未タ機械ノ真價ヲ曉ラサレノ時ニ際シ下
等工夫ノ或ハ之ヲ誤ルテアルモ亦驚クニ呈ラ
ス蓋シ凡テ思慮ノ呈ラサレヨリ生来セル者
ニテ一百年前ノ鐵工夫及々今日尚ホ新器械ノ
發行ヲ拒ム者アルハ凡テ有シク人間ハ禽獸ニ
勝ル心所以ハ者ハ獨リ器械ノ力ヲ依リテ其劣
ハ簡者スヘキ術ヲ知ルハ力ヲ有スルニハハ

キ下ヲ曉ラサレカ故ナリ蓋シ人間ハ其種属ノ
如何ヲ問ハス何カ器械ノ援助ナクハ到底其
性命ヲ保ツテ能ハサレ者ナリ是レ即チ自然ノ
知ラシムル心ニシテ今人間ヲシテ必要スル所
ニ達セルカタト天ヨリ附子サシタル支体力ハ
之ヲ禽獸ニ比スレハ甚々小ナリ然レハ獨リ能
ク工造ノ力ヲ依リ即チ水力風勢若クハ蒸氣等
ヲ以テ其穀ヲ挽キ又或ハ曾テ手呈ノ力ヲ要セ
ス唯車乘ノ輔々ニ依リ氣車火船ノ力ヲ恃テ以
テ能ク遠路ヲ行クヲ得ルハ實ニ喜佩スヘキ

下ナラスマ推カ精巧ヲ極メタル織機ノ鈔ヲ織
 リ錦帯紐編ムノ神選美妙ナルヲ見テ賞嘆ノ声
 ヲ禁スル者アラニマ惟フニ彼アラクホル
 旧法ニ固着シタル工夫ヲ初テ如斯キ妙機ノ
 世ニ出タルヲ見シトキ其必竟之カタメ工夫
 ノ需用ヲ増スヘキヲ以前ニ千倍スルニ至ルハ
 キヲ曉ラスシテ矚然之カタメ巨曹ヲ要ヲ薄
 スル者ナリト誤解セシニヨリテ此ノ不幸ヲ来
 ンタルナリトシ

〔毛織製造ノ景況〕

夫レ不幸ニ製綿ノ外凡

テ英國百般ノ

工業ハ往時器ナ不幸ニシテ左ノ為ニ兼涉サ
 レ多ク其進路ヲ擱阨サレサル者ナカリキ彼毛
 織製造ノ如キモ其来ルヤ最モ久シクコルナ
 スタルノ大織ニ於ルルウイチノ粗呢ニ於ル
 サトバレーノ裡呢ニ於ルグロスタルノ羅紗ニ
 於ル及ヒケンタルノ粗布ニ於ル器ナ其名昔時
 ニ着ハレ殊ニ千三百年代彼フランスタル人々
 ヲ避テ英國ニ来リ大ニ毛織製造ノ業ヲ振起シ
 タルノ頃ニ至テハ全國皆テ之ヲ製造ニ着手シ
 奢麗竜動及ヒヨークノ如キニ至テス又ラ一時

毛織製造ノ中局トナリタリキ然レハ物價ノ騰
起セル備全ノ高貴ナル及ヒ絨布ヲ刷撫スルカ
父ノ母スル所ノ水便ヲ欠キタル如ヨリ漸々衰
微ニ赴キタルノ際又邑會ノ制束ヲ受テ終ニ微
カニ女路ヲヨリク近隣ノ村落間ニ遺シ常ニ例
蘭西製造者ノ父メニ争競ヲ挑ミニテ志シ悚
々トシテ自ら安スルヲ能ハスト星モ奈何ヤシ
力足ラズシテ彼ト争賽ヲ試ムル能ハス竊ニ思
ラケ仙國製造者カ自ら特ム知ハ他國ノ綿毛ヲ
輸入シテ自産ノ者ニ雜スルヲ得ルノ便ト之ヲ

ムカ父メ善良ナル方術ノ利ヲ得タルトニ在リ
而シテ如如ク彼カ我ニ長スル所以テ知リナカ
ラ散テ進テ之ヲ学フニ勉メニ進達ノ要ヲ志
テ慢リニ素居自衛ヲ是トシ曾テイリガベス女
王ノ時ヨリ當時ニ至ルマテ女色組ヲ工爪シ或
ハ時々ノ流行ニ適スヘキ模範ヲ兼案スルノ外
綿毛製造ノ道ニ於テ毫モ改良進歩ヲ加エタル
ヲナカリキ嗚呼彼ニシテ着眼ノ宜シキヲ得タ
リシナラバ曾テ仙蘭西ノ招賽ヲ懼ル、一十カ
リニナラン然リ而シテ初テ女製造上ニ完備ノ

改正ヲ施シタルハ彼製襪機ノ發明ナシ莫ニ本
錦ノ紡削ニ適宜ト便ナク知リタル上納之ヲ
変更相整シタルカタメナリキ
製糸ノ一及ヒ仙國製糸ノ兼造 製糸ノ具及ニ
於ル又製棉ニ優ル如ナク同シク仙蘭西ノ兼造
ヲ以テ焦眉ノ憂トナシ居タリ而シテ傭夫馬ヲ
能ク始終之ヲ忍フハキ千七百六十三年ニ至テ
彼等カ憤懣愈大ヲ加エ忽チ相、駭テ一揆ヲ起
起シス々ツドフムールドノ地方ニ於テ如々ノ
織機ヲ毀テ多クハ高料ナル絹緞ヲ製チ或ハ傭

主カ似像ヲ造テ之ヲ市中ニ擡テ擲抛蹴踏シテ
史然ヲ示シタリ又々フリンニニ於テモ織工相ヒ
集合シテ仙國ヨリ製糸輸入ノ一鳴ラシ同シ
ク如々ノ織機ヲ破壊シタリ如此ク国内ノ傭夫
及ヒ製造者カ艱難一時ニ相會ヒタリト呈モ其
言フ如ク聞ケル各卦表ヲ異ニシ織夫ハ直チニ
一層嚴格ナル制限ヲ輸入糸上ニ加エテ其保護
制ヲ堅クセシテ唱工銀帶ヲ執リ者ニ却テ内
國產生糸ノ全量ハ能ク高業上ノ要需ニ充ルニ
足ル可クサレテ信ニ今一方ニ絹緞賣人ハ獨

リ能ク正論ヲ保ツテ其工夫、於テ仍ホ餘レ
ル大ノ取用、リト呈モ未タ按産業ヲ起スヘキ
丈、熟練及ヒ才能ヲ得タル人物ニ乏シキヲ嘆
シタリ以上如斯ク其唱フルルハ異ニ人々ヲ以
政府ニ於テ其正決ヲ取ル能ハスト呈天一時
失ツ能ク之ヲ鎮制スルノ切ヲ奏シタリ然レド
饒ニ二年ヲ経テ備夫再ヒ相起リ鼓噪飄放其妻
子ヲ携エテ直ニ議院ニ迫リ在テ脅迫意ニ之
ヲシテ二種ノ条例ヲ奏セシメタリ即チ其
ハ内国生念上ニ課スヘキ税額ノ減スル者ニシ

其(女)ニハ外国製之輸入ヲ禁止セシ者、リキ
其ニ如斯クナルヲ以テ其頃伊ナ利ヨリ概經用
ノタメ僅カノ捻出ヲ輸入スルニシテ其間
民ニ於テ其受セサルルト思想サレ竟動府ノ税
関ヲ通入スル外堅ク之ヲ禁シラヒタリ是等ノ
下凡テ英國政府カ高法上ノ実理ヲ弁フルニ疎
カリシヨリ其ルルハ此ニシテ之ヲナシテ、
ニ備夫ヲシテ全ク經濟ノ主義ニ戻リタル望ヲ
懐カシムルニ試ニ見ヨ千七百七十三年
ニ奏定ナシタル(十)條例ハ敢テ備主即チ製造者

カ傭夫即チ職工者ヲ勤察セシメテ防ニカク
各地方ノ知付ヲヒテ各地方内識夫カ給料ノ定
額ヲ極ムルノ權アリシメタリ又見ヨ年々改正
條例ヲ發シテ愈々輸入禁止ノ制ヲ堅クシ且ウ
種々ノ法律ヲ設テ傭主等共ニ傭夫ニ對シテ操
ヲ合サシメテ論シタリ如何ゾ如此ノ制限答
スルハ多キ法度ヲ以テ商業ヲ隆盛ニ卦カ
シメシメテ期スヘケレマ

註(八) 一七三三年即位ノ一七三三年ニ發見カ
レタル條例ヲ二十九号

(九) 一七三三年即位ノ一七三三年ニ發見カ
レタル條例ヲ四十八号

(十) 一七三三年即位ノ一七三三年ニ發見
カレタル條例ヲ六十八号

製衣布ノ事

英國曾テ製衣布ノ産業ヲ重シシタル
一ナシ故ニ彼英國製衣布會社ノ如キモ千七百六
十四年ヲ以テ創立サレ且其行ヲ外ノ者ニテ微
少ナリキ而シテ政府ノ務ヲ其輸出ヲ励サシカ
タメ輸出品一ヤルト毎ニ半ベニ以テ勸賞金ヲ
下賜シタリト是モ尚ホ四方ヨリ政府ニ嘆息ス

ルノ声絶エス或ハ外国ヨリ輸入スル麻布ノ関稅ヲ増カセシテ精ヒ或ハ之ヲ減セシテテ折エテ其差相反撃シタリト呈モ帝ニ出他獨享ノ從テ主張スル者其勝ヲ得タリキ^{此等ノ情}凡テ英國製布ノ業盛ナラスニテ始終他國ノ夕メニ壓制カシ居タルノ景況ヲ拓表スルニ呈シリ蓋シアル蘭土及ヒ斯格蘭土ハ當時全英國製布ノ本局ニシテ其製布場及ヒ^{此日ニ創シリ}十一~~一~~ 獅列顛製布會社ハ

註(十一) 獅列顛製布會社ハ一千七百四十六年

ヲ以テ斯格蘭土製布ノ業ヲ勵サニカタメ創業サレタリト呈モ漸々其政ヲ變シテ竟ニ銀行トナリタリ

製鉄及ヒ石炭ノ事 其頃ニ鉄ノ製造ハ未タ盛大ノ点ニ達セサリキ蓋シ此時既ニロルト知ツド^トシ^レ氏^カ石炭ヲ以テ貴價ナル木炭ニ代工鑄造ノ用ニ供スルヲ明セシ後々數年ヲ経テシ氏寬ノ作法サ宜キヲ得サリシカタメ未タ充分ノ成^功ヲ奏スルニ至ラサリキ故ニ抑モ石炭ヲ用^クテ其^功ヲ奏シタルハ後々彼^コール^下ル

一クテイル製鉄ノ成リタルヲ以テ分一トス要
スルニ彼新工凡ノ撞凡吾及ヒ凡竈ノ發明サレ
隨テ鉄磚ヲ以テ容易ニ軟鉄トナスキ法ノ初
テ世ニ知ラセタルハ莫ニ製鉄上ノ一大改進ト
稱スヘシ然レ氏初ノ高ホ克外ノ凡力ヲ得ルノ
法ヲ曉ラサリシカ故ニ最大ノ製鉄場ニシテ其
製スル外尚ホ一週間毎ニ僅カトトシヨリ十二
トニニ過ス而シテ各製造所一ヶ年平均高ハ未
々五百トニニ達セサリシト云フ然レ氏ヘシ
||コルト式カ軟鉄及ヒ捲鉄ヲ法ヲ發明セシニ

依リ木炭ノ代リニ石炭ヲ用イ且ツ全ク錐ヲ用
~~ル~~ルノ多量小切ナク廢シ以前ヨリ少ナキ
而ノ骨力ヲ用テ其量違ハ以前ニ倍シタル善且
ハ美ナル鉄ヲ製スルノ法ヲ得ルニ至リ始テ製
造者ノ其業ヲ重シ且ウ相与ノ資本ヲ待テ新
法ノ切益殊ニ大ナラシムルヲ曉リタリ而シテ實
地ニ切ノ著シキ曾テ千七百六十八年南ス々
フオールトシヤイヤ全郡中一ツノ木炭ヲ用
製鉄所ナリ僅ニ九個所ノ坑炭ヲ用井ル者アリ
テ其製スル外一週間ニ各十五トニノ小量ニ過

キス又餘他々英國ノ全地方其木炭ヲ用井ル者
二十四ヶ所坑炭ヲ用井ル者四十ヶ所ノミナ
リシモ此後僅カ數年ヲ出テ廿八間ニ増加ス
ルヲ殊ニ多ク随テ製造量モ倍大ニ加工忽チ鉄
器鍵鎖及ヒ抹漆シタル鉄器ノ大工作ヲ起スニ
至レリ然リト呈モ實際捲鉄及ヒ軟鉄ヲ柔明シ
タル当人ノ之ヲタメ得ル如甚々少ナク即チ其
親族ノ者政府ヨリ些量ノ金額ヲ彼供大ナル柔
明ノ功勳ヲ表スルカタメナリトテ受取居タリ
キ又石炭ノ産業モ之ヲ今日ニ比フレリ殊ニ微

又タル者ニシテ全国ニ出產セシ石炭四分ノ一
ハハルハム及ヒノルサムブハクドモ石炭坑
ノ出スルニ係リテ千七百七十年ニ全国
石炭坑ヨリ出ルル凡^(土)ク六百二十万五千ト
シニシテ其内一百五十五万一千トハ此方ノ
諸港ニテ賣捌キタリ

註(十一)千八百七十一年石炭調査官報告ヲ見

ルハシ就中ロバルトハルト氏カ報告書ニ
委シケタリ記セリ

陶器製造ノ事 此時ニ際シ英國餘他ノ工術上

莫ニ驚クハキ変更ヲ生シタリ是レ即チウエツ
トリード式等ノ時代ニシテ殊ニ陶器製造ノ追
々貴重視サレ、トトナリケリ蓋シ英國ハ往古
ヨリ陶器製造ノタメ入用ナル物料ノ一モ之ヲ
有セサル者ナカリシモ京陶器ノ如キハ往來殆
トト凡ク之ヲ仙蘭西日耳曼及ヒ伊太利ニ仰キ
タリ然ルニ此頃ニ至リ種々改良ノ相ヒ踵テ加
ハリ即チ塩ヲ以テ鉛礦ニ代エ日本製ノ陶器ヨ
リ再ヒ一種ノ赤色ヲ復生シ且ツ石ヲ以テ鉄ニ
代ユル等ノ諸矣見ニ依テ大ニ進歩スル外アリ

キ然リト呈モ快産業ノ真ニ貴重物タルノ実跡
ヲ表シタルハ抑モ彼有名ナルヨシヤ、ワエツ
ドゥーードカ熟練シタル手精巧ナル目ヲ以テス
タツフナルトシヤイヤニ於テ女業ヲ創メタル
時ニ始マレリ曾テイリサメテヤレド式同氏カ
傳ヲ為テ曰ク凡テ此時ニ至ルマテ英國ノ陶器
ハ女飾色ニ於ル女妝容ニ於ル又女配法ニ於ル
一トシテ美術ノ名ニ扱フ者ナク故ニ若シ偶マ
異色ノ粘土ヲ混焼シ瓜捺シタル外妝ヲ具エ棕
色若クハ青藍ノ緑ヲ帯ヒ襪絨形ニ變マル尤古

鐵ノ模様ヲ染付タル陶器ヲ見シハ是レ最上ノ
好珍器ナリト心得タリ蓋シ此時ニアリテハ維
ヒ此マテニ發明サレタル諸術ヲ相々聚メ百方
カヲ尽シテ之ヲ製造スルモ或ハ其白色悪シク
或ハ軟弱ナルノ患ヲ免レズ或ハ色取リノ工ミ
ナラス或ハ對左ノ宜キヲ得ス或ハ角々々或ハ
滑カナラスレテ真ノ華美精緻雅致ヲ致ス能ハ
サリキ然レニウエウドウドモ自ラ推理ノ精
心ヲ励シテ教テ學問上ノ理ヲ以テ其術ヲ遠行
シ遂ニ技術ノ改良進達ヲ導ク。自然 通義ヲ

以テシタリト

註 (十二) イリサメテヤルトモカ著述ノレヨレ

ヤウエウトウドカ 傳カ一卷百六十七葉
ニ出ワ

蒸氣機関ノ事 如ク英國百工上及ヒ技術上

種々ノ新工夫ヲ加エタルモ要スルニ若シ蒸氣
機関ヲ以テ新々ニ一大動力トナスノ發明即チ
發明中ノ最大發明ナリセリ真ニ百物ノ進歩
ヲ起スヲナカリシナラシ蓋シ動物ノ力ハ其程
量ノ限シル者ニシテ彼ラアラド人種及ヒ

ラビヤ人種ノタメニ此地廉狗犬及ヒ駱駝ニ
テ各々其用是ルヘキモ計リ難シト星モ凡テ動物
ハ皆^{凡ソ}其数ヲ限シル者ニシテ且ツ絶エス休息
飼養ヲ要スヘク又不時ノ死傷或ハ災害ヲ免レ
難ク加フルニ大小強弱アリテ到底其便ヲ全フ
スル能ハス又水ノ如キモ其瀑布トナラズ天涯
ヨリ落ルトキハ烈ク洪水ノ重力ヲ有シ風ノ如
キハ其颶風疾風及ヒ暴風トナルトキハ烈ク其
勢能ク支エヘカス或ハ以テ実用ニ供フヘキモ
奇シク隨意ニ之ヲ使用スル能ハス即チ又欲ス

ルトキニ之ヲ呼ビ其需ムル外ニ之ヲ待ツト能
ハサレヨク以テ亦之ヲ人間ノ実用ニ施ス可ラス
然レニ遠ニ蒸気ナル者ハ常ニ洪水ノ勢力ヲ具
エナカラ最モ管理シ易キ者ナルトヲ發見ナシ
タリ今試シ此大發明ノ堅信^傳ヲ奉ルヘシ抑モ蒸
気ヲ以テ動力トナサントテ試ミタル者既ニ夏
々早ク千五百四十三年ノ頃アラスコガリカシ
川ナレ人ニカ發明ナシ小蒸気船ヲハアスボナ
ノ港ニ於テ世ニ示シタリ其後今ウゴースナル
人之ヲ用井テ水ヲ揚ル^ルヲ發明シウオニス

此十儿者鏡テ此用法ヲシテ一層供大ナリト人
タリ又バピン式ノ蒸氣ヲ凝結セシメ其上大氣
ノ壓力及之カ膨脹力ヲ依リ棒ヲ以テ機関ヲ
動搖スルヲ發明シ踵テサウアレシ式火氣ヲ
去テ之ヲ凝結セシムル代リ冷茶ヲ用井テ同切
ヲ驗シタリ然レハ同式カ法ニ從エハ曾テ大氣
ノ力ヲ借ルヲ要セザリキ又ニウコウメシ式
ハ凝結ノタメニ噴水ヲ用井重壓ノタメニ大氣
ヲ用井タリテサキウリエ式ハ機関ニカニ防
危弁ヲ以テレビイトニ及ヒスニトニノ二式
ナリ

ハ尚ホ之ヲ改良スル処アリキ然レモ此時尚ホ
未々真ニ其教スル処ニ達スルヲ能ハスレテ凡
テ同管内ニ入ルル処ノ全蒸氣四分ノ一ノミカ
ヲ顯ハシテ餘ハ皆之ヨリ洩散シタリ然リト是
モ終ニ午七百六十九年一月五日ヲ以テワット
氏火車ニ用井ルル処ノ蒸氣及ヒ薪炭ヲ儉約スル
ノ法ヲ發明シ從テ之カ印票ヲ得タリ而シテ之
カタメ全社會ノ變革セル果シテ幾莫ナルヲ知
ラスアラエリ式曾テ云エルヲアリ曰ク抑モ蒸
氣機関カ為セシ知ヲ復講スルハ即チ全体人間

開化ノ徳及ヒ學術切益ノアリハ、然ラズ速ク陳述ス
ルニ當ルハ、蓋シ大地ノ中心貫徹シ洪大ノ鑛
山ヲ開キ以テ地中ノ魚尾藏ナル金銀貨物ヲ發
スルノ功ハ誰カ為スル剛ナルトキハ、則チ能
ク万石ノ重キヲ大洋ノ中央ニ釣リ以テ軍艦ヲ
シテ怒濤ノ際ニ安カラスルハ、然ノ錨纜ヲ索フ
ニ堪エ柔ナルトキハ、則チ豎微鏡ノ力ヲ返ラサ
シハ、能ク別別ニ難キ如ク鈔羅帶鈕ノ経線ヲ紡
ムニ適ス又畴昔ニ在テハ、偏ニ深山阿岳ニ就テ
求ルヘキ如ク大動運力ヲ以テ之ヲタメ繁榮華所

ナル市井間ニ得ルヘク、又金閣銀臺ヲ坐上ニ擁
スルニ加旃ナラズ、大動勢力ヲ以テ工人ノ欲ス
ル如ク、徒テ増減スヘク、又之ヲカクメ種々ノ職工
ヲ以テ同梁ノ下ニ營ムルハ、キハ豈ニ重宝ト稱ス可
クナラズ、トマ船ニ就テ之ヲ用井ルトキハ、此ニ舟ノ
石炭ヲ費シテ以テ能ク天地ノ性力風雨ノ暴勢
ヲ凌ヒテ飛ヒ且ク其迅速ナル往時ノ快艘ニ勝
ルト三四倍ニシテ且ラス又車ニ就テ之ヲ使フ
トキハ、則チ數万ノ乗客ヲ引テ其馳ルト駭馬ノ
争賽ヨリモ疾シ然ラハ、則チ馬ヲ言悟ノ能ク之

カ按群稀代ノ切カヲ表横スルニ堪ル者アラシ
ヤ

註(十四) フラハム氏著述ノワット氏カ傳ニ出

(十五) エム、アラゴリ氏著述ノセイムス、ワッ

ハ氏カ純徳伝ニ見ユ

〔舎密学ノ進歩〕 此日又是シ舎密上諸宗見ノ元
曆ナリ蓋シ此マテハ所謂ル舎密学ナル者ノ世
ニ知ラレタルヲナシト稱シテ可ナリ或ハ一二
件ノ既ニ着眼サレシ者アリシモ未タ此カ理ヲ

推究スルニ心ヲ用井タル者ナク亦舎密家ト稱
スル者モ絶テ世ニ稀ニシテベツカル氏及ヒ列
スターン氏カ名モ之ヲ知ル者莫ニ少ナク要ス
ルニ舎密ノ事ヲ以テ経研学派ノ一トナサシカ
タト未タ初歩ノ階級ニモ進マサリナリ然レ
ニ彼セイムス、ワット氏カ師君タルトクトル、ア
ラウク氏ナリ人始テ按学ノ基礎ヲ定メ其経
ヲ大気上ニ起シ鏡ヲ定費及ヒ隱熱ノ試験ヲ以
テ大ニ世ニ益シテ鏡テカマニ分ラシク未
ルアラウテ水ノ分析及ヒ引力ノ事ヲ推究シテ

スレ一氏ハ酸意發明ノ功ヲ奏シ又ラヴカイジ
ヤ氏ニ至テ悉ク精密学ヲ脩整編纂シタリ此時
又英象学ナル者新々ニ世人ノ注目スル如クナ
リ即チ千七百七十三年ニ「**王家會**」ノ社負相
報儀コシテ日々其會堂ニ於テ晴雨計寒暖計温
針及ヒ風針ヲ以テ試探ヲ施サニテ決シ即チ
ハニシ一カバニケツシ君ヲシテ此事ヲ司ラシ
メタリ且ツ同會ハ此マテクレシコールトト
字ニル僻函ノ地ニ居リシモ千七百八十年ニ至
リツマニセウトハウスニ轉移シタリ

「**技術會**」及ヒ「**弘藝館**」ノ事 學問ノ進歩スルニ隨
テ技術モ亦盛大ニ赴キ既ニ千七百二十一年ニ
於テ有益ナル智識工藝製造及ヒ之ヲ發明ヲ振
起シ隨テ之ヲ保存セシカク「**技術院**」ト号フ如
ノ會社ヲ開クノ建議アリタリ又千七百四十八
年ヲ以テベニジマニニフウニクリニ氏利國英
吉利斯植民ノ際ニ有益ナル智識ヲ與サレカク
メ利國理學會ト稱スヘキ社ヲ開カレテノ論業
ヲ公行シタリ又千七百五十三年ニ至テ製造技
藝貿易勸業社(會)ヲ創立シタリ初メ其目的トス

ル奴ハ凡テ多民ノ名トニ取業ヲ与工南業ヲ振
起シ随テ英國ノ富貴及ヒ名譽ヲ増スヘキ諸君
明改良及ヒ著述等ノタメニ絶エス勸賞ヲ賜フ
セシカタメナリキ而シテ喜フヘシ此會仍ホ今
日ニ存シテ盛且ウ大ナルヲ見ル蓋シ此際ニ實
ニ万国一統美術學館ヲ起スノ美風ヲナシ先ウ
千七百六十五年ヲ以テ彼カサリン女帝莫大ノ
恩金ヲ下シテセントピルタルスおヒクニ於テ
美術學館ヲ開キ統テ千七百六十六年ヲ以テウ
井ニシヤ議會ハ彼リヤル下カテミヤ、テルレバ

ルシ、ア、ル、キ、ト、称スル者ヲ與ニ其後一年ニシ
テイ、レ、リ、ル、カ、ル、ル、ド、ル、氏、ハ、タ、ス、セルト
ル、フ、ニ、於、テ、又、一、館、ヲ、創、メ、タ、リ、而、シ、テ、千、七、百、六
十、八、年、ニ、ハ、別、々、電、動、府、ニ、於、テ、彼、弘藝、館、者、投、立
サ、レ、テ、サ、ル、レ、ヨ、ス、ワ、レ、ノ、ト、成、此、カ、長、ト、ナ
リ、タ、リ、同、年、又、キ、ヤ、ル、ス、オ、三、世、ハ、ウ、ア、レ、ン、シ
ヤ、ニ、於、テ、サ、ル、カ、ロ、オ、ノ、一、館、ヲ、築、キ、千、七、百、七
十、年、ニ、至、テ、又、一、館、ヲ、ア、ラ、ウ、セ、ル、ス、ニ、建、テ、タ、リ
千、七、百、七、十、五、年、又、ミ、ラ、ン、府、ニ、於、テ、マ、カ、ヤ、セ、レ
シ、ヤ、女、帝、ノ、學、館、ト、称、セ、ラ、ル、者、起、リ、統、テ、又、リ

ニドクラーフ、フレダリックオ二世ノタメニカス
セルニ於テ一館ニ成ルアウテ其後四年ヲ出ス
トテ再ビ同年^帝ノタメニオケスバルクニ於テオ
二者^{興立タルアリキ}由之觀之レハ抑モ^此時ニ於テ嘗
ニ英國ノミナラス他ノ諸国ニ於テモ百工ヲ改
良シ進歩セシムルノ時至リタルナリ

「^{イギリス}ロヤルカレッジ」^{イギリス}及ヒ「^{イギリス}ゲレスハム大学校」ノ創始
如斯ク万物進歩ノ際ニ當テ奮勵存中ニ於テ實
ニ懐クハキ而行ノ生来セシハ實ニ遺憾ニ堪エ
サルナリ是レ即チ十七百六十八年ニ於テ彼

「^{イギリス}ロヤルカレッジ」^{イギリス}大学校ヲ校餉官ノタメニ僅カ一ケ
年金五百ポンドヲ以テ政府ニ買却シタル一莫
ナリ抑モサルトリヤマス、カラスハム氏ハ博學多
才ノ士ニシテ深ク會計上及ヒ高法上ノ筆ニ熟
練シ「^{イギリス}ドワント才六世及ヒイリガベス女王ノ
時ニ在リハ屢ク外債ノ事ヲ擔任シ又西班牙政
府及ヒ「^{イギリス}パアマ」ノ^{カウチス}大夫^{カウチス}人カ許工全權公使トシ
テ送ラレタルヲモアリシカ帝ニ高法ヲ以テ帝
ニ一ノ校稿手段タルヨリ寧ロ一紙ノ実學視ス
ヘキナラ唱工居タリ蓋シ此頃ニ在テハ諸高人

一日、兩度市中、相集ルノ例ナリシカ氏思ラク
凡ク商人保獲ノタメニハ為替堅ナル者ナカル
可ラスト此ニ於テ之カタメ已レカ財産ヲ寄附
シタリキ然レ氏尚ホ以テ是レリトセヌ又人
心ヲ養育セサル可ラスト秘シ其住居シテビシ
ヨッブスグートニ在ルルハ在ルルナリ居宅ヲ以
テ学校ノタメニ貸シ渡シ之カタメ得ルルハ金
額ヲハ彼コヤル為替堅建築ノタメニ供シタリ
而シテ曾テ千五百七十六年ニ製シ置シタル同
ニカ遺書ニ依リ換財産ノ一半ヲハ竟勅ノ府尹

志長及ヒ庶民ニ委託シ之ヨリ取上カルル金
額ヲ以テ換学校ニ於テ神学天文学音楽及哉何
ノ講義ヲ維持スヘキヲ望ミ他ノ一半ハ之ヲ
調銀高社ニ寄附シテ同レク之カ入額ヲ以テ法
律医学及ヒ修辞学ノ三課ニ付テ講義ヲ與ハシ
テヲ求メタリ由是觀ルハ同氏カ偏ニ希クハ
彼学校ヲシテ高人ヲ教育スヘキ大学校タルコ
トハニ在リシト又瞭然タリ而シテ現ニ同氏カ
為レシハ一々同校ノ便益及ヒ名譽ヲ起テシカ
為メ出ル者ナカリキ如斯クシテ一時ノ万幸

都合要カラス教員ノ如キモ凡テ有名ナル諸大
家ヲ得テ女実学術諸藝ノ本望トナリテ高人之
内其最モ進達シタル者皆ナ此ニ寄リ彼ヨヤル
會モ同シク此ニ起リ加フルニ廣大ナル書籍館
及ヒ結構ナル博物館モ此ニ属シタリ然レ不
幸ニシテ忽チ火災ニ會シ之カタメ入額ヲ減少
シタルヨリ無残ニモ**勸**府會及ヒ**絹**絹商社ノ
者等相謀リ其莫共ナリ狭シテ快建築ヲ政府ニ
買却スルノ薄情ナル**業**ヲ**過**行フタリ而シテ其
後之カ跡**疎**狭ナル一学校ヲ役ケ徒ラ構義ヲ

維持シタリト虽モ憫ムヘシ以前ノ精神恣々地
ニ墮テ卓ニ府會及ヒ高社カ不正ヨリ竟ニ其元
来ノ主業ヲ達スルノ難キニ至リタリ嗚呼今夫
レ教化進達ノ日ニ際シ万物皆ナ爽快ノ新色ヲ
現シ活平ナル精神ヲ起スノトキニ當リ彼高人之
間ノ大豪傑カ曾テ遺囑セシ心ノ重贈ヲシテ空
シク無用ニ属セシメタルハ果シテ何事ワヤ若
シ再ヒ之ヲ獲回スルノ榮華アリシナラハ其徳
殆トト最許ナリレワ憾々ヘシ若シ彼カラスハ
ハ学校ヲシテ全輩カ生活スル知ノ今日ノ用ニ

合ハシメシテハ余輩ハ敢テ心カヲ尽シテ曾
テ英國豪傑仁者ナル一大家カ至徳窮リナク寛
量限リナキ恩賜トシテ之ヲ貴重スルノ意ヲ表
スヘキニ嗟嘻今七矣

註

十六千八百五十三年ニ至ラケラスハ家
産ハ彼ガラスハハ家産社ノタメニ政府
ハ十萬ポンド以上ノ價ヲ以テ買求サレ此
外ニ種々ノ高籠ヲ建築シテ今日之ヨリ上
ル外ノ入税金額殆ト一ヶ年毎ニ二萬ポ
ンドニ迫シト云フ之ニ由ルハ曾テ千七百

六十八年ニ於テ女原本縣ニ一萬ポンドニ
當ル割合ノ年賦金ヲ以テ賣却サレタル財
産千八百五十二年ニ及テ十萬ポンド以上
ノ價ヲ以テ之ヲ賣拂フニ至リ又今日ニ在
テハ右モ新築ノ之ニ加フル外アルモ其年
々ノ入額ヨリ計算スルハ其價四十萬ポ
ンドニ當ルヲ見ルヘシ以テ毫動府中土地ノ
莫ニ驚クヘキ増價ヲ致シタルヲ云ハス
ニ呈レリ

亦二回(千七百六十三年ヨリ十三年間)

○英国々計ノ増益(千七百六十三年ヨリ十三年間)

漕運ノ下。道路ノ景況。駅通ノ制。

銀行ノ下。諸府ノ開進。アイル。

トノ景況。穀例ノ下。政府ノ畜業上

及ヒ工業上ニ兼及シタル下。アタ。

スミス民カ事附経済学進歩ノ下。国

富ノ真源ハ何レノ処ニ在ル哉ノ論。

統計学及ヒ経済学ノ關係

漕運ノ下

抑モ通運ノ便ヲ開クハ一國生産物

ノ力ヲ與サシカタ人最モ緊要ナル事件ナリ然
ルニ英國ニ於テ既ニ前回ニ述ヘタル如ク種々
ノ發明相續テ起ルノ際ニ當リ道路ノ修繕漕溝
ノ剗鑿港ノ開啓特ニ国内^並外國トノ交際ヲ
割理スル処ノ經濟上ノ規則ハ絶エス全國ノ注
眼スル処ナリ^下ハ實ニ喜フヘキナリナリナリ
茲ニアリ^りト^らビ^らオタル候ニ^テエ^スタルヲ去
ル^ト總ニ數里ニシテウオルス^レト字セ^ル地
方ニ於テ一ノ大石炭坑ヲ有セタリシカ其頃陸
運錢ノ高貴ナル彼石炭坑ヨリマ^レキ^エス^タル

マテ石炭一トニ付殆ント四十^リル^リニ^シケ^ルノ
運賃ヲ費スヘキヲ以テ之カタ^メマ^ニキ^エス^タル
ルヲ益スル^ト絶エテナカリシカ故ニ今如何ナ
ル方法ヲ以テウオルス^レト^マニ^キエ^スタル
ニ通スヘキヤハ當時ノ一大疑問ニシテ或ハ
カ^ルス^レト^ノ小河ヲ剗鑿シ以テ漕運ノ用ニ適
セシメ^ルト^テ企^ムル者アリ^ト呈^スモ到底行ハ
シ難キヲ以テ終ニ之ヲ休メ更ニ兩地ノ間新々
ニ漕溝ヲ穿^テ却テ成功ノ目的ヲ^シテ^シト^稱
ス^ル者アリ^トヨリ^テ竟ニ之カタ^メ入^ル費^ノ資^力ヲ

與し當時工学ノ一大家タルブリンドレー氏カ
助カヲ依リ初メウオルスレーヲスタッフオー
ルドニ通シ次キニマルセー及ヒアーウエル
貫洞シテ以テ竟ニ世切ヲ奏シタリ然レ凡人皆
女儀論ヲ尽シテ如斯ク按射サシタル内國通運
ノ新法ニ抵抗セシト恰モ後日ニ至テ鉄道創業
ノ際ニ於ルカ如クナリキ而シテ又言フ如ク同
クニ或ハ曰ク若シ漕運ヲ増セハ馬畜ヲ減シ
高ク傷害シ及ヒ海軍ヲ衰微セシムルノ恐シ
クト曰ク之カ為メニハ巨万ノ金額ヲ構盤ノ中

ニ沈ノ多ク穀物ヲ生シ動物ヲ畜フハキ土地
債ニ剩工自然ノ江河ヲシテ費用ナカクシムル
ニ至ルハシト蓋シ以上ノ如キ妄説ヲ唱レ者ハ
未タ国内ニ漕運ヲ開キ以テ容易ク鑛物ヲアル
所ニ達スルヲ得且ツ外國物産ヲシテ内地
ヲシムルノ便ヲ開キ此マテ為レ来ルルノ産業
ヲ一新シ内ハ新々ニ内地ノ生産ヲ盛ニシ外ハ
即チ外交ノ量氣ヲ励マスヘキヲ予曉ラサレカ
故ニシテ竟ニ實地ノ利益ヲ目撃スルニ及テ存
シク其口ヲ閉ルニ至リタリキ即チ政府ニ於テ

一千七百六十年ヨリ一千七百七十三年マテ前後
十四年ノ間ニ道路ヲ修繕シ漕溝ヲ穿ニケタメ
公布シタル一ノ条例殊ニ(三)多ク随テ先ツレ
シヨクサムプトニシヤレノシタフニコニ
及ヒフオームスヲクワイトニ通シタリ後々又
切刻ノ大業ヲ起シテウグアルブーニホ
リストル及竜動ノ諸港ヲ共通シタリ蓋シ漕溝
ノ益タル英國下院委員ノ報告書千八百三十年
アイルランド貧民ノ情態ニ係レル篇ノ語句ヲ
引テ以テ之ヲ証スルニ是レリ曰ク「能ク字

間ノ真義ニ依リ會計せ宜レキヲ得テ以テ内国
ノ漕溝ヲ修整スルノ功ハ都テ諸私振ノ相ヒ振
ルル農業ノ改良ヲ輔ケ諸方食物薪炭ノ價ヲ平
均シ随テ或ル一地方ニ於テ人間生活ノタメ
リ可クナル此等ニ用物ノ乏シキヲ恐レナキ
ニ至ラシメ加フルニ絶エヌ新様ノ職業ヲ改テ
人民ニ給付シ徳テ一般ニ其情態ヲシテ善良ニ
赴カシムルニ在リト

註
(一) フリウジウオタル候ノ彼漕溝ヲ開カサ
リし前ハウグアルブーニヨリマニケス

タルニ至ルマテノ運賃ハ一トニ毎ニ河運
 ニテ十二「ル」分陸運ニテ四十「ル」リ
 ニケナリシカ彼漕溝開ケルニ於テ政府余
 例ヲ改テ之ヲ運賃ヲ一トニ毎ニ六「ル」リ
 ニグト定メタリ尚ホ千八百四十年季報オ
 七十三卷水道及ニ漕溝ニ係レル篇ヲ見ル
 ハシ
 (二)「ル」ル「ル」ル亦三世即位以來十四年間ニ英
 國諸地方ノ公街修繕ノタメ布告サレタル
 條例ノ數ハ四百五十二ナリキ

〔道路ノ景況〕

當時高法及ニ工業ノタメ一層ノ
 不便ヲ極メシハ道路ノ修整セスシテ人々相互
 ノ交通ヲ妨ケシ「ナ」ナリキ蓋シ此日尚ホ彼特聖
 ミルトン氏カ時代ヲ去ル「ナ」遠カラスシテ同氏
 曾「ナ」旅客ヲ詠シタル詩ニ曰ク

沃畔海兮峭壁岬 叢林疎密路堆平
 旅人拳足又控手 或立或拳或渡行

之ニ由テ道路ノ修整セスシテ旅人行クニ極ニ
 タルヲ見ルヘシ而シテ全國諸道ニ轉國ノ制建
 ナシハ抑モ下「ナ」漸ク千七百六十三年巴利

結和ノ後ナリシト去フ千七百六十六年ロンド
ンドン氏カ諸國ヲ巡回サレシ片ニウカラス
ルヨリ電動マテ四ケ日ニシテ到着シタルハ当
時ニ在テ最モ駿速ナル者ニシテ電動トリカ井
子ノ間ハ馬車一週間ニ三回ノ往復ニシ
テ一タヒ女行ヲ果スニハ少クモ四十八時間
ヲ要シタリト又リカ井子ノ間ヨリケラズコ
ロニ至ルニ日半ヲ要シイカレボラヨリ電動マ
テハ十二日ヨリ十四日マテニテ毎月一度ノミ
ノ往復スルアリ

計 訖 中 ラ ン カ シ ヤ イ ヤ 近

傍ハ道路最モ粗悪ナリシト去ヘリ曾テ千七百
七十年ニアリサアヨンガ氏カ諸方ヲ巡視サレ
シトキ身命上ノ危険ヲ冒サスシテプレスト
ヨリウイガンニ至ルニ到底難カルヘシト去ハ
シタリ以上都テ如斯キヲ以テ女物産ノ販売上
ニ困難ヲ生セシト又知ルヘシ随テ諸方物價ノ
相違ハ壁ニハ電動存ニテ市民食物ノ乏シキヲ
嘆クノ際或ハ地方ニ於テハ農夫一斤ノ半高ヲ
賣テ女得ルハ僅ニ五ツアリシニ過サルト
アリシト去フ而シテ愈々全國ヲ通シテ鉄道ノ経

緯スルニ至リシハ尚ホ數年後ノ事ナリキ然レ
氏此時ヨリ内国往復ノ不便ヲ憂フル者曾テ絶
工ルナク常ニ道路ノ修繕ニ注意シテ郵便
制郵便ノ制モ亦大ニ完備ヤスシテ郵便便モ隨
テ貴リ依テ起ルルハ便益モ甚ク少ナク千七百
六十三年ノ頃ハ所稱ル郵便局ナル者モ只專賣
ニ薄ク局長ト星モ僅ニ二人ノ餘分ナク執筆官
ヲ具シタルノミナリキ而シテ千七百六十四年
(三)以前ハ上下院ノ議決ハ常ニ翰筒ノ表ニ女
姓名ヲ認ムルノミナリ以テ免稅ニテ通信スルノ

特權ヲ有シタリ此ニ依テ其朋友ナク者皆ナク新ニ翰筒ノ表ヲ請ヒテ受テ常ニ
翰筒ヲ貯フルニ比シカリシト云フ又郵便船ハ
日耳曼ニ向テ知ノハアノウイウク船四隻カシ
イオステントド及ヒフヲリシニケニ往復スル知
ノドウアノ小船六隻及ヒ此亞米利加並ニ西印
度ニ到ルルハノフアルマウス小船五隻ニシテ政
府最尾者ノタメニ費スルノ金額ハ一ヶ年分一
一万ポントナリシト云フ固ヨリ所謂ル蒸氣船
十人者ナク通例其最モ迅キ者スラ之ヲ今日ニ
比スレハ航海日數三分一ノ位ノ必ス遲延ニタ

ルカ故ニ愈々遠路ニ至テ、運滞倍々加ハリ随
テ商人及ヒ銀行、タメ不便歎トセス(四)蓋シ此
時既ニ英國海上ノ通商稍々盛大ニ趣キ、就中外
國ノ關係益々繁シカリシト、星天奈何セシ船艦
ノ多ク輕小ニシテ危險至テ大^{ナリキ}ナリ初メテ木
ノ代ニ銅ヲ以テ船底ヲ包ムノ法ヲ發明セシハ
抑天下テ千七百七十年ノマナリシト然レモ尚
ホ其粗陋今日ノ快船蒸氣船若クハ甲鉄艦ノ比
ニアラザリシト、曾テ論ヲ俟タサレナリ

註(三)千七百六十年即ハヒヨルビオ三世即位

ノ四年ニ癸亥カレケル條例ヲ二十四号ニ
依テ此特權ハ些少ノ定ムル官吏ノ外之ヲ
稟ル能ハサルトナレリ及ヒ同二十五号
ヲ以テ地方内一^{バン}ス郵便ノ制ヲ立以テ
一、駁程ヲ出サレルノ通信ニ供エラレタリ
(四)内地郵便税ノ變動セシト、實ニ滋ラシテ
千七百六十二年ニハ尚ホ曾テ千七百六十
年即チア、女帝即位ノ九年條例ヲ十号ヲ
以テ定ラレタルニ、從ヒシカ、千七百六十
五年ニ至リ、書翰一^道、舟一駁程以内ノ各

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

一、バニス若シ定量ニ二ハスレバ即チ二ハニ
三倍スレハ即チ三バニス若シ一ヲレ以上ニ至
ルトキハ即チ四バニス課シ一駄程ヲ踰ル毎ニ
又之ヲ倍スルトニ定ルレタリ千七百八十四年
ニ至テ再ヒ之ヲ改正シ各都府ニ投ラレタリ駄
遊局ヲ去ル十英里以内ハ同シク一通ニ付一
バニスノ制ヲ通行シタリ而シテ仙臺西ヨリ奄
敷ニ至ル書翰ハ一通毎ニ十バニスヲ課シ若シ
二倍スルトキハ一ハニレバハバニス三倍ス
スレハ二ハニレバ六バニスヲ課シタリ西班

牙ヨリ奄敷ニ至ル書翰ハ一通ニ付バニスハ
一ハニレバ六バニスニシテ若シ二倍スレハ
三ハニレバ一ハニレバ伊太利ヨリ同所ニ至ル一
通ニ付各々一ハニレバ三バニスナリキ又郵
便船ハ廿出帆能ク定刻ヲ守レリト星モ需用是
々々ナク又支那及ヒ印度ニハ定刻ノ郵便船ナ
ク唯時々高船往復ノ便宜ニ由テ通信スルノミ
ナリキ千七百六十三年及ヒ四年ノ頃彼東印度
會社ニ附属セシ船艦ハ各々五百ト以上ニシ
テ印度及支那ニ至リ再、帰港スルマテニ概ス

十八ヶ月ヲ費シタリ即チ船ハ千七百
六十三年一月一日ニセシトヘリナ及ヒ支那ニ
ニ向テ出帆シ明年七月十九日ヲ以テ歸港シ不
チウシ艦ハ千七百六十三年一月二日ニ支那及
七東洋ニ向テ出帆シ明年八月四日ヲ以テ歸港
シガラトシ艦ハ千七百六十三年三月一日ニ同
如ニ向テ出帆シ明年十一月五日ヲ以テ歸港シタリ
且ツ其頃海上保険積金モ今日ニ倍シテ竟動
リネーブルスマテノ間ハ三十日ハリシガカ
スマテノ間ハ二十一ハリトシガヒルホア
マテ

ノ間ハ二十五日ハリシグカトサヒナマテノ
間ハ三十日ハリシグニウヨクマテノ間ハ
四十二日ハリシグニシテ同如ヨリ東印度往
復ノ間ハ七ギニイナリキ

「銀行ノ」

今日商業ノタメニ大便宜物トナス
如ノ銀行ノ如キモ當時ニ在テハ其教莫ク少ナ
彼英國銀行（田）ハ獨リ全英國中唯一ノ合本銀行
トシテ其特權ニ專操シタリ抑モ此英國銀行ト
稱スルハ曾テ千六百九十四年ヲ以テ結立サレ
後千七百六十四年（田）ニ至テ向後二十一年ノ

定期ヲ以テ其特状ヲ改ニサレ千七百八十一年
 至テ再ヒ延期ノ許可ヲ得タリ而シテ其度ト
 モ其英國政府ニ若干ノ金額ヲ調達スルノ情ヲ
 クテ之ヲ許サレタルナリ千七百五十九年以降
 換銀行ヨリ發行セシ手取ハ各々十五ポンド十
 ポンドノ二種ニシテ千七百九十三年ニ至ルマ
 テ曾テ五ポンドノ手取ヲ出セシメナカリキ其
 外私立銀行ノ存スルアリテ各々發券貯蓄トモ
 取扱ヒ居タレ其融通切手ナル者高ホ少ナルヲ
 銀行ト始終入拂勘定ヲ存スル者モ亦乏カラス

然レ其惣勘定所ノ制ハ既ニ建ツテ當時ノ需用
 ニ適スルタケノ事務ハ悉ク此処ニテ取扱ヒタ
 リ蘇格蘭ニ於テモ既ニ蘇格蘭銀行ノ千六百
 九十五年ヲ以テ結成サレ又ロヤル、バンク、オフ、
 スコットランド銀行及ヒ大英製布會社ノ存ス
 ルアリシモバニク、オフ、バンク、アル銀行ハ千七百八十三年ニ至ル
 マテ結成サレサリキ凡テ當時未タ今日ニ用
 ル所ノ簿記法ナク者ナキカ故ニ其簡便ヲ欠キ
 タルヲ憂カリシト云フ

〔註〕(五)英國銀行ハ千六百九十四年ニウキリヤ

ムオ三世即位ノ五年及七六年条例分二十
号ニ依リ即チ英国政府ニ貸附タル百二十
万ポンドノ資本ヲ以テ初テ結成サレ千六
百九十七年曰王即位ノ八年及七九年条例
分二十号ヲ以テ千七百十年ニ至ルマテノ
延期ヲ許サレ同時ニ其資本ヲ増加セシ
百万ポンドニシケ其後又アレ女王即位ノ
七年条例分七号ヲ以テ千七百三十二年マ
テノ延期ヲ得続テ再チ千七百十三年ニ至
リ曰女王即位ノ十二年条例分十一号ヲ以

テ千七百四十二年マテノ延期ヲ得タリ而
シテ此時既ニ同銀行ノ全資本金ハ九百万
ポンドマテ増加セタリ右期限ノ切シタル
ニ及テ再ヒレヨルニ曰二世即位ノ十五年
條例分十三号ヲ以テ千七百六十四年マテ
ノ延期ヲ受ケタリ其後同銀行ノ全資本
金ハ千零七十八万ポンドニシテ千七百八
十二年至ルマテ更ニ変更スルナリ此年
千百六十四万二千ポンドトナリ竟ニ千八
百十六年ニ及ンテ千四百五十五万三千ポ

レドノ妻キニ至リタリ

(六)レヨル心才三世即位ノ四年条例才二十

五号

諸府ノ開進

然レハ英國諸府ノ日ヲ進テ開進

スル甚々迅速ニシテ之カタメ高法及ヒ百工ノ

変革セシト莫ニ驚クヘク昨日ノ英國ハ今日之

ヲ見ハルニ至リタリ先ツリウアルプールの

レカシヤイヤ郡ニ於テ製造ノ盛ニ起リタルト

米國殖民地方ニ於テ次分ニ人口及ヒ富饒ノ加

ハリタルト加那多地方ニ於テ新タニ英國ノ回

版ヲ擴メタルト且ツ西印度耕作ノ伸開セルト

トヨ以テ大ニ利益ヲ得ハルミニングハムハ彼ハ

ルミンゲハム、スタウフォードシヤイヤ及ヒウ

オルスターシヤイヤ溝溝ノ新タニ開ケタルヲ

以テ堵方ヨリ石炭ヲ輸入シ及ヒ製造業ノ益メ

ニ用ユヘキ生品ヲハ曾テ知らサレハノ廉價ニ

テ買入ルハキ便ヲ得テ其益スル如又大ナリキ

此時ウホノ製造品ハ既ニ開カレワタ氏又

彼新工凡ノ蒸氣機関ヲハ益ク世ニ發行シ各々

其功驗ヲ表シタリマニチエスタルハ未タ許マ

ノ會社ヲ有セザリシモ近憐凡テ製造所ヲ有シ
タル村邑ノ夕夕ニ繞環サレブリストルハ當時
比美ナキ外國通商ヲ起シ諸河^流ノ輔助ヲ得ニ其
益甚々多ク分ラヌコノモ亦愈々西印度ノ交
商ヲ勵マシメタリ

〔アル蘭土ノ形勢〕 如斯ク一方ニハ一物開明ノ
域ニ進ミ益々富饒ノ基ヲ築クノ際ニ當リ曾テ
之カタメ至些ノ利益々モ受サリシ者ハ獨リ阿
爾蘭土ニシテ其住民ハ絶エス不平ヲ鳴ラシ常
ニ不逞ノ色ヲ現ハシタリ又其故ナキニ厭ス如

何トナシハ英國ハ此際獨リ己レニ適スヘキニ
ノ高法上ノ國是ヲ行ヒタルニ不幸ニシテ此
常ニアル蘭土ノ利益ニ齟齬シタリ蓋シ往時^{此事}
航海法ニ依リハ凡テ英人政羅巴並ニアル蘭土
ノ物産ヲ其殖民地ニ向テ輸出セルト致セハ必
ス英吉利斯及ヒウエームスノ港ニテ艤船セサ
ル可ラズ其後條例ヲ以テ約々改正シタルハ
アル^ト僅ニ白布若クハ灰色布ヲ以テ此カ例外
トセシメテナリキ又其後奈見サレタル條例
ニ依リハ凡テ殖民地產ノ物品ハ先ツ之ヲ英國

二上陸したる上ニ非レハ阿爾蘭土ニ入ルヲ許
 セス且ツ阿爾蘭土ノ年綿ハ英國ノ外之ヲ輸
 出スルヲ禁シタリ(六)又東印度產物ト星モ一
 且英國ヲ經カレハ之ヲ輸入スルヲ禁ハサリキ
 然リ而シテ其後ナジヨルニ才一世ノ時稍々之
 ヲ寛シシタレ其決シテ英國獨亨國是ニ拍觸セ
 ナルト明カナル上ニ此レハ以上舉ルルノ業ヲ
 解ク可クナル者トナシタリ如斯ク英國ニテハ
 類リニ獨亨ノ主義ニ偏着シ今一方ニハダアリ
 川府ノ高民深ク英國外置不鳴ラ公平ナル外置及其高

法ノ大主義ニ戻リタル國業ヲ答メタリ此ニ依
 テ千七百七十八年下院ノ委員大ニ思慮ヲ廻
 シテ此不平ヲ匡セシトテ勤メタレ其責ニ功
 ナカリキ

(七) 千ヤールス才二世即位ノ十五年條例才
 七号

(八) 千ヤールス才二世即位ノ二十二年及ヒ
 二十三年條例才二十六号

設例 以上夫レ高法ノ通義ニ戻リタルヘシト
 星モ其弊ヲ去シ今其最モ不条理ナル者ハ当

時内外ノ穀高ニ関セ九法律ナリキ往時英國ノ
人口尚ホ薄クシテ國資モ未タ巨大ナリサリシ
トキニ在テハ英國常ニ穀物ヲ他國ニ輸出スル
ノ位置ニ居テ之ヲ彼ニ仰キタルノ例絶エテナ
カリシカ千七百六十三年以降數年ノ間穀物及
ト餘他食物ノ價大ニ騰貴シ既ニ貧民ノ一揆ヲ
起スニ至リシ者數度ニシテ大ニ以前ト異リタ
ル体裁ヲ現シタリ此ニ於テ國王ノ特命ヲ發シ
阿卑蘭土ヨリ每國稅ニテ鹽シタル牛肉猪肉及
ヒ鹹乳油ヲ輸出スルヲ許シ凡テ穀物ノ輸出

ヲ停止^レ及ヒ醸酒ノタメニ妻ヲ費スヲ禁シタ
リ是レ固ヨリ條理^協且ツ單一ナル法ナリト呈
モ尚ホ之ヲ以テ是レリトセズ誰人ニテモ若シ
此禁制ヲ犯サレトテ企ツル者ヲ發告スルニ於
テハ裁干ノ責金ヲ下^具シ最モ甚シキハ彼^刑刑
トワルド牙六世及ヒイリガハ女王時代ニ行
ハシタル穀物ヲ豫買シ若クハ包攬スル者ヲ嚴
罰スルノ法ヲ再行シ加フルニ英國諸港内穀物
ヲ漬ム処ノ船舶ヲ封禁シタリ而シテ彼豫買者
及ヒ包攬者嚴罰法ノ特ニ以テ條理トナスルヲ

聞クニ曰ク若シ如斯キ事業ヲ許スニ於テハ同
質品ヲ所持セル物主間ニ自ラ起ルヘキ乱ノ争
競ヲ止ムヘキカ故ナリ曰ク品物ヲ預買スルハ
真意ハ委カノ品物ヲ一時ニ交易場外ニ曳去リ
衆多ノ争競人ヲ整シ以テ不肖ノ利益ヲ自身一
個ニ求ムカガメナリ曰ク彼レ一時ニ品物ヲ買
込ムニ由テ之カタメ其價ヲ騰貴シ實際ニコレ
テ本價不肖ノ相場ヲ漲ラシムルニ至ルカ故ニ
彼レ即チ自身一個ノ利益ヲ謀ラシカメ公衆
ヲ剥奪ス之ニ依テ政府進テ彼ヲ懲得シ之ニ課

又ル乱ノ者ヲ以テ公衆ヲ憐ハセル可ラス以
上唱フル乱ノ者ハ其実當時ニ在テハ政府ニ於
テモ事物ノ真理ニ暗ク其一時一人ノ私業ヲ以
テ市場ヨリ品物ヲ除去スルハ即チ該品ノ欠乏
ヲ来タシ夫カ代ニ一層多量ノ同品ヲ外地ヨリ
持込ミ之カタメ却テ一層該品ノ値ヲ低クスヘ
キナラマ腫ラサリシカ故ナリ而シテ愈々經驗上
ヨリ其弊害ヲ知テ初テ此酷律ヲ廢止シタルハ
抑々下ツテ千七百七十二年ノナリキ

註(九) ナトワルト才六世即位ノ九年及ヒ六年

条例第十四号

(十) ヲヨルニテ方三世即位ノ十二年條例分七

十号

穀價騰貴ノ一

當時穀價騰貴シタル原因ハ初
メ之ヲ曉ル者ナリ或ハ人口大ニ繁殖シタル
カ故ナリト云フ或ハ茶及ヒ牛乳ヲ消費スルノ
大ナルニ根スルナリト云フ或ハ多クノ田地ヲ
掘埋シ及ヒ之ヲ以テ牧場ニ変シタルカ故ナリ
ト云フ或ハ銀價ノ下落ニ依リト云フテ又換
リ外更ニ一定セザリシモ能ク其原由ヲ探シ

久シク政羅巴諸方ニ於テ氣候大ニ不順ニシテ
穀物ノ々々受害歎カラス加フルニホルラド
争乱ノ々々從來之ヨリ穀物ノ給付ヲ受ケ居タ
ル諸国ニ於テ大ニ欠乏ヲ生シタルカ故ナリキ
然ルニ不幸ニシテ此頃未タ英國ニ於テ穀物ノ
平均直價ヲ知ルヘキ制法ナリ斬ク下ツテ千七
百七十年ニ至リ初テ諸方ニ令シテ穀物平均相
場ヲ報告スヘキヲ命ジタリ然レテ(十二)千七百
七十三年ニ及テ初テ彼類ナル穀例ヲ定シ若
シ内国穀價一クワルトル毎ニ四十八ニセリシ

カスニ達シタルトキハ別ナ同量ニ付六パン
ノ関稅ヲ以テ他國ヨリ之ヲ輸入スルヲ得若
シ四十ニ上リシガスマテ下落スルトキハ
之ヲ他國ニ輸出スルヲ許シタリ而シテ後穀
例ヲ奏免サシタルハ若シ更後言ニ述フル処ニ
依シハ其実大ニ農工航海ヲ進達セシメニカク
メノ主令ニ出ル者ナリトシ十年未例第三十九号
註三ヨルニカク三世即位ノ十三年條例第四十
三号

政府、高業及ヒ工業ニ答嘴セシコ
當時英國政

府ノ喜見ヲ察スルニ抑モ政府ナル者ハ人民ノ
父母タル義務ヲ有スルカ故ニ一々民庶ノ為ス
ルヲ監督シ丈職工等必要ノ点ニ達スル下ヲ得
ザルニ於テハ或ハ妙巧手段ヲ施シテ之ヲ達セ
シシメザル可ラスト而シテ政府今此ノ喜見ヲ
以テ其真正義務ノアル処ヲ量リタルカ故ニ是
レキニ至テハ或ハ西三物ノ利益ヲ目シ公衆利
益ノ係ル処ニシテ公衆又之ヲ維持スルノ義務
下ル者ト做シ苟ニ之カ利益トナル処アハ之
カメ他ノ高業若クハ工業ヲ妨害スルニセヨ

路ヲテ之ニ兼設セサル可ラスト稱シタリ幸ニ
シテ如ル主義ヲ志スル者畢局更替ヲ失フ短リ。
如ク物料ニ悉リ重稅ヲ課セラシタムトアリ然レ
氏人民ノ情願ニ依テ責ニ之ヲ免ビリ蓋シマ
ニキエスルノ製造者及ビ工師ノ織工
ハ最モ百工免稅ノ後ヲ主眼スルノ魁首ニシテ
或ハ自ラ英國全民ノタメ天ヨリ委任サレタル
擔任者ナリト稱シテ議院ニ迫リ勇テ幼稚ノ工
業上ニ政府ノ兼設ナカルヘキヲ強論シ責ニ
付テ之ヲ悉リ百工上ノ稅ヲ解キタリ即チ製

棉ノ如キハ曾テ政府或ハ機院ノ保護及ビ庇陰
ヲ受スレテ自ラ生長シタル者ナルヲ故ニ却テ
盛大倍達ナル産業トナリタレ之ニ反シ羊綿
製造ハ始終政府ノタメ秘藏寔安サレタリ之
ニヨリテ取弱姑息ノ物トナリタリ文未政府カ
羊綿製造者カ為人ニ為セシ外ニ一ニテ自ラ其
利益ヲ傷殺セサル者ナリキ試ニ見ヨ凡テ羊
綿ヲシテ英國市場外ニ出レルトテ禁シタルノ
ミナラス彼長綿ハ意ト万国ニ惹クハ性質ヲ具
エタルヲ以テ之ヲ輸出ヲ禁止スルノ法ニ向テ

實に不當ナル大活断ヲ用キタリ即チ千七百八
十八年(註)ニ發見サレタル條例ニヨリ凡ソ生
羊ヲ外國ニ輸出スルヲ禁シタルノミナラス國
内ト星モ悉皆ノ制限ニ立テ、一地方ヨリ他ノ
地方ニ羊綿ヲ運送スルヲ防キタリ又其最モ
甚シキハ海岸五英里以内ニテ羊毛ヲ剪摘スル
ヲ禁シタリ是等ハ即チ保護制ノ最モ至リタル
者ニ依リテ而シテ今其實際致ル如ク是日之カ
々々高業及ヒ百工ノ窒碍引錯サレサルハナリ
徒ラニ產生者ノ利益ヲ重ニシテ雷テ消費者ノ

損害ヲ顧ミス農業ノ進歩ト星モ幾分乏ヤタメ
ニ阻擱サレタリ如斯クシテ失業ノ上ニ失業ヲ
重ニ必竟其殘スルハ一ノ失望アリノニ左モ或
ル点ニ於テハ多少無稅ニテ生品ヲ得ルノ制ヲ
視^是テ^レアリテ即チ生藍^{コチニ}呀^ン蘇木等ノ如キ條
料ニテ輸入スルヲ得又^{コチニ}樹材及ヒ樹皮ノ如キ
モ其稅ヲ輕クシタル^リ然レモ一般ノ國是
ハ外品ノ輸入ヲ禁シテ慢リニ勸賞金ヲ下賜シ
テ國產ノ外國ニ輸出セシメテ勵スニ在リキ此
時^此マ^マ涅^ニ取^リ工^ヲシテ國境ヲ高シシメス產主合

謀ノ禁盛ニ行ハタルヲ以テ海峽聯邦ヲ著クノ
制大ニ一般ノ概ヲ示シタリ

〔註〕(十三) じヨんじチ三三即位ノ二十八年條例

亦三十八号

「アダムスミス氏ノ事附経済学ノ進歩」抑モ此
時ニ當テ如クキ立法ノ真ニ致ス知ハ果シテ何
レ、知コアルヤヲ明指シ且ツ製造者及ヒ職工ヲ
シテ其自ラ^ヲ注スル知ノ真因及ヒ実果ノ何者
タルヘキヤヲ曉ラシメシカタメ一大明鏡ノ此
ニ掛ル者ナカレ可ラス即チ章ニ富同ノ本質及

ヒ原因論ト題マシタル一書ノ是リ誤謬ノ根
ヲ破リ其ク真理ノアル知ヲ示シ且ツ厚敬^ヲ齎
ノ諸論ヲ集纂シ能ク其要篇ヲ分ツ者ノ世ニ出
テタルニ遇エリ蓋シアダムスミス氏カガシ
タル処^ニ裁^キナルヤヲ量知セシカガシ^ニ此マテ
在リ来ル知ノ経済学ノ履歴及ヒ^(十四)体裁ヲ每
エサル可ラス蓋シ国富ノ在ル知ヲ研究セシ
ヲ試ミタルハ或^ク以テ第一トス可ラス古ヨ
リ各国皆ナ其国天禀ノ有様若クハ物情ヲ好改
セシヲヲ格メ^ルルナ^リ然リト呈モ要スルニ曾

テ真ニ之ニ達スヘキノ方術ヲ學ハカリト昔ノ
如シ即チ帝國人民ノ如キ曾テ富饒ヲ好マサル
ニ此ナリシモ深ク安速ニ富リ加フルニ帝ニ給
賜ヲ更政府ニ仰キタリ故ニ其國政ヲ執ル者
外ノ通例全眼外ニ議同ハ万民共有物ナル
国内産ヲ以テ最モ其民ヲ富スノ方術如何ニ
アリキ羅馬人民モ亦久シク干戈ヲ事トシ真
ニ其國ノ富饒ヲ急セズ彼方ウカスタス帝ノ奮
然秩序開化ヲ以テ其國ニ勸メタルノトキニ際
シ人民ノ偏ニ帝ニタル如リ僅ニ食物ノ充分ナ

ル配當ヲ得ルノミニ在リテ執政者モ又首ヲ垂
シテ百工上ノ細論ニ着眼スルノ要ヲ知ラザリ
キ

註(十四) フラキ一氏著述ノ政羅巴經濟歴史
ヲ見ルヘシ

富國ノ原因ハ何シノ如ニ在ル哉 羅馬帝國紀
業ノ後ニ當リ彼野蠻人後ノ政羅巴ニ横行シ四
海亂シテ紛々タルノ時ニ際シテハ曾テ力ヲ國
富ヲ致スノ途ニ用イタルノ例ヲヤリシカ中古
社會ノ出產地タル伊左利ノ諸府其商業ト工術

トノ々々ニ漸々富饒盛大ニ卦リテ見テ初メテ
此等ハ真ニ富國ノ原因タルハキノ思想ヲ諸家
ノ心頭ニ起シ製造及ヒ交易ノ疑問ハ経済学者
ノ腦中ニ浮ヒタリ然レドモ真実如何ナル故リ以
テ製造及ヒ交易ハ一同ノ富饒ヲ醸生シ及ヒ分
配スルカノ論題ハ尚ホ曖昧トシテ曠露ノ中ニ
之ヲ判シ難カリシナリ而シテ或ハ製造及ヒ交
易ハ国内ニ金銀ヲ誘引スルカガ為メナリト稱シ
タル者アリモ若シ之ヲシテ世正ニ得タル者ト
セハ真ニ富國是ノアハルハ可成丈々物品ノ輸出

ヲ盛ニシ可成丈々金銀ノ輸出ヲ制止スルニア
ラザル可ラス是レ即チ實際ニ違フ者ナリ又例
國経家カ主張スル如ニ由レハ凡ソ高業ニ自
分ノ力ヲ以テ富ヲ致シ難キ者ナリ如何トナレ
ハ彼唯地球ニ在ル如ク富ヲ變移分配スルニ過
ガルカ故ナリ然リ而シテ農事ノ真ニ富國ヲ
致スノ原因ナリト今若シ彼カ誤リシハ信ナラ
シタルハ曾テ外国貿易ノ真ニ多ク富饒ヲ醸成
シタルノ事莫ト相違シ且古ヨリ農事ノ力カ
ル能ク人民ヲシテ貧窮ヲ免シシタルニ是レタル

者ナキヲ奈何セシ然ルニ又一方ニハ交易権衡
ノ換即チ出入口貨ノ別ヲ唱エタル者アリ也
リ知ニ由ルハ今富饒ナル者ハ卓ニ金銀ノミヲ
以テ成シル者ニ限ス一ニ内産ヲ以テ外産ニ交
易スルノ際能ク其利益ヲ謀リ凡テ内国ノ産物
其本然價スル知ヨリハ一層貴ク之ヲ外国ニ賣
リ及ヒ換取引ニヨリ常ニ金銀ヲ以テ其差分ヲ
国内ニ持归ルヘキニアリト如斯ク諸説異々ト
テ相容ル、トナク要スルニアタムスミス氏カ
其書ヲ著シタルノ際ニ当テハ天下皆チ富饒ノ

途ニ於テ農業商業及ヒ金銀ノ各致スルノ分限
ヲ撰リタルナリ且ツ此項未タ経済ヲ論究シタ
ル定然ノ著述書ナカリキモ伊右利ニ於テ既
ニ経済ノ教論題ニ関シタル諸書アリテ即チ外
ニウアヒガキ一氏及ヒスウラウフイ氏ハ其項
彼国ノ諸方ヲ治ルルノ諸候辱ク貨幣ヲ変革シ
及ヒ質造ヤシカクノ貨幣ニ関シタル善書ヲ著
シタルハシナシニ及ヒプログジヤ氏ハ自由ヲ
以テ公富ノ原因ヲリト主張シ深ク專賣ノ制ヲ
毀謗シ其外ガリヤニベツカリヤガナルヲイ

等ノ諸氏ハ價資本及ヒ労力ニ勝レル貴重ナル
 書ヲ編纂シタリ而シテ彼等カ稱スルニ由シ
 ハ自由貿易ハ富国ノ初歩ニシテ高利貸借ヲ制
 スルノ法ハ其理ヲ得サル者トナセリ又併
 ニ於テモ(十五)ク#スネーミアポー
 イリイナウボンナウ又ムールナ
 外許委ノ論者カ著ハスル如アリテ皆ナ
 ニス氏ニ先ニシタリト呈モ要スルニ
 カ如キ真ニ経済ノ学ト稱スヘキ者ヲ述
 十カリキ

註 (十五) 千七百五十八年巴利斯出版ノ

ネー氏著述ノ経済表ナウボン氏著述ノ政
 府自然ノ制度ト題シタル書及ヒ千七百八
 十年アロニスウイグ出版モイウイリヨ
 氏著述ノアヒヨヨクラウシイアリイフア
 ンドボルト題セル書ヲ参考スヘシ

〔統記学ト经济学ノ関係〕 蓋シ近世諸家カ為ス
 処及ハサルヘシト呈モ彼アダムスミス氏カ
 国富論ハ幸ニ又经济学ノ論題ニ関シ統記学ノ
 必要ナルヲ認メタリ曾テウナリヤムヒウテ

カ書序に曰ク「今余カ踐行スル外ノ路ハ世人
未ク之ヲ取ル者多カラス余ハ敢テ比級最極(法文)
ノ字替ヲ用イ或ハ高尚ナル議論ヲ仮ルノ代
ニ久シク余カ持独法有スル外ノ方ヲ用井政事ヲ以
テ数学トナシ負数度量ニ依テ世表ヲ表シ僅ニ
感觸ノ力ニ依テ現自然ニ基ヒスル外ノ論ノミヲ
奉ント欲ス而シテ曾テ各人固有ノ論及ヒ派
派ニ漫ルヲナシト由是觀之シハ統記ノ学タル
既ニ同氏ノ日ヨリ政事上經濟ノ実ヲ知ルカク
メノ一方術ト認メラシタリ而シテ竟ニ經濟学

ヲシテ実学ノ一派タル性變ヲ具フルニ至ラシ
メタルハ實ニ統記学ノ力ニシテ又之カタメ彼
学曾テ一何ノ試弄物タリシモ更ニ推理ノ門ニ
入りタルナリ然ルニアタムスミス或早ク茲ニ
着眼シテ大ニ統記学ニ邁テ其書ノ基礎ヲ與シ
タルハ故ニ能ク万代不変ノ実印ヲ奏スルニ至
リタリ今校書ノ致シタル外ヲ要言スルハ最モ
明カニ勞力ノ獨リ國富ノ原素タルヲ示シ彼
金銀ヲ以テ富饒ヲナスノ論ヲ破毀シ又交易權
衡ノ說ヲ每駁シ竟ニ一國經濟上ノ同是ニ向テ

真ニ勤カサル^ル業理ヲ述ヘタリ

第三回 (千七百六十三年ヨリ千七百七十六年マデ十三年間)
〇七々年争乱ノ後諸国商法ノ景况

英国商業ノ区域。ハニス、タウ、
ノ景况。○普魯士商業ノ景况。○俄羅^ス斯^キ及^チ瑞^ス甸^ノ及^チ大^ニ泥^ス国^ノ商業ノ景况。○西^ス班^ニ牙^ノ及^チ葡^ス萄^ニ牙^ノ商業ノ景况。○仙^ス国^ノ商業ノ景况。○東^ス印^ニ度^ノ交^ノ商ノ景况。○西^ス印^ニ度^ノ交^ノ商ノ景况。○奴^ス隸^ノ賣^ノ買^ノノ事。○関^ノ稅^ノノ事。○航^ノ海^ノ例^ノノ事。○商^ノ法^ノ局^ノ附^ノ之^ノ力^ノ取^ノ掌^ノ。

英国商法ノ区域
今夫ニ近來英国商業区域ノ

廣大無量ナル景光ニ懐シタル如ク眼ヲ擣シテ
彼国一百年以前ノ景光ヲ顧シハ恰モ別界ヲ視
ルノ心地シテ愈々其真ナルヲ信スルニ至ルマ
テ多クノ思慮ヲ費サシル可ラス其ニ又頃英國
ヨリ他国ニ給付セル如ク物産ハ甚々微細ニシ
テ随テ彼ヨリ持還ル如ク者モ亦多クナリキ
然リ而シテ今又一百年前ニ輸入シタル茶ノ價僅
ニ三百萬ポントノ小量ヨリ今日輸入スル如ク
一隻四千萬ポントノ大額ニ上リ又棉ノ價漸ク
四百萬ポントニ達セサリシモ近來十億ポント

一ヶ年ニ於テ

ヲ踰ルニ至タルハ夫レ果シテ推カカナリニ或
曰ク他ナシ唯一ニ工業ノ改進セルヨリ英國々
資ヲ増加シタルニ外ナラズ試ニ見ヨク六百六
十三年頃英國一ヶ年出入関稅ノ惣額ハ三千万
ポントニ過スシテ其内凡ク二百五十萬ポント
ハ阿爾蘭土トノ通商ニ係リ是レ即チ今日ニ
在テハ内国通商中ニ差入サル、ヲ以テ真ニ外
國ニ係リシ者ハ又實二千七百五十萬ポント計
リナリキ而シテ其常ニ注目セシ如ク彼誤想ニ
出タル貿易ノ權衡如何ノ一点ニ在リタルノミ

又頃英国内港ノ航海モ大ニ制限サレ、外アリ
且ツ水夫ハ既ニ勇敢不拔ノ名譽ヲ受ケ最モ
耐忍力ニ富ニテ能ク委見ノ業ニ適スルノ権
ヲ蒙リタリト呈モ其海上通商ノ術ニ至テハ竟
ニ未タ阿蘭陀及ヒ余他ノ海勢國ニ敵スルヲ能
ハサリキ

ハシスタウニス高業ノ景況 然リト呈モ是レ
時運一變ノ期ニシテ維テ其微脚ナルモ英國ノ
高法ハ忽チ進歩シテ他國ニ先スルニテ得々
リ而シテ一般ニ往時高業ハ遙カニ其跡ヲ絶

ナ世情ノ轉遷^遷新ヲ以テ旧ニ換ヒ此ニテ高業ノ
渥手トモ称セラルル諸國ノ俄カニ後生者ノ
タメニ壓倒サルニ至リタリ試ニ見ヨハニス
タウニス^{タウニス}聯盟ノ如キモ一時政羅巴ニ冠トシテ
竟勤府中ニ於テスラステールヤルト會社ノ名
ヲ以テ異帝ノ特權ヲ專有シタリ尤モ此特權ノ
如キハ既ニ没収サレテ後々年月ヲ歴彼聯
盟自身ト呈モ此時遠ニ其形ヲ失ヒタリ然レモ
ハハハルガハ我ホ依然トシテ各國通商ノ咽喉
ヲ抑エ旧時彼聯盟者カ有ヤレ然ノ精神氣力ハ

尚ホ未々全ク之ヲ去ラズ又鳩業ノ遺跡ニ至テ
ハ今日々モ現然之ヲ北政大市場ノ間ニ見ル
得ベシ蓋シ彼聯盟ナル者ハ世ニ益スル処甚々
多クシテ殊ニ破船掠奪之權及ヒ外人遺産没収
之權ヲ破毀シ戰時局外者ノ權利ヲ伸張海陸運
漕ノ安全ヲ保シ並ニ司法ノ体裁ヲ改良シタル
ハ皆十彼カ致スルナリ由是觀之シハ彼聯盟
偏ニ己レカ高業上ノ安全且ツ利益ヲ謀フニカ
タメ敢テ他國ノ權利ヲ傷ムヲナク又諸國ニ失
テテ普通貿易及ヒ自由競高ノ真義実益ヲ曉リ

タル者ニ非スヤ不幸ニシテ千七百六十三年ニ
至リハムバムグハアムスタルダム高買及ヒ銀
行ノ倒灶シタルヲタルタメ大ニ高業上ノ銀厄
ニ害ミタリ

註

(一) スチールヤルド會社ノ産業ハ千四百七
十五年英國女王ヨリハニスノ高人數輩ニ
交附シタル若干ノ地祿ヲ以テ成リタリ

(二) 外人遺産没収之權トハ外國人此國ニ在
テ財産ヲ有シ若シ遺書ヲ製スシテ死去
スルトキハ則チ此國ノ政府之ヲ没収スル

ノ権アルヲ云フナリ而シテ此権千七百九
十年ヲ以テ仙蘭西會儀ノタメニ破毀サレ
タレト餘習尚ホ政四維巴各國ニ遺存スル
久クシテ各國特時相互ノ盟約ニ依テ漸ク
之ヲ避ケタムノミ

普魯斯商業ノ景況 当時政四維巴ノ北方ニ於テ
頗リニ商業ノ茂芽ヲ發セントスルノ勢ヲ
タリト呈モ各々種々ノ艱厄ニ之ヲ驅散スルア
リテ各國未タ之ヲ排去スルノ方術ヲ得サリキ
此時普魯斯ハ彼勇敢ナル國帝ヲシ知リウケキ

二世ノ制御ヲ受ケ益々屋大ニ至ルノ兆ヲ示シ
タリト呈モ要スルニ帝カ政畧曾テ百工ヲ造
スルノ道ヲ得ス即チ千種万態ノ專賣更許ヲ下
シテ^{新工}平^工高^工法^工上^工農^工モ苛酷ナル禁制ヲ施シ
重税ヲ課シタリ故ニ決シテ普魯斯ノ商業ニシ
テ隆昌ニ振カシケルノ法ヲ得タル者トナス
ニ批難ヲ受ケシナルノ所以ニ曾テ廿國會計ノ
情事ヲ以テ仙蘭西ヨリ許麥ノ^{稅餉官及}税餉官及^{税關}税關後
官ヲ集エバ^府府ニ来リタル^{仙人}仙人ハ^官官

キヤスト杯スル者、予ニ委ネタリ然ルニ曰
人得マニ四局ヲ設ケ許^ス 捜索官^{イニシチヤン} 監^{コト} 数^{ロリヤル} 官^{ビヨギヤル} 量^シ 衡^ス 官^ル
盗^ツ 獲^ル 官^ニ 及^ビ 簿^ヲ 掌^ル ヲ 置^キ タリ 其^レ 等^ノ 諸^ノ 官^ノ 更^ニ 各^ノ 家^ニ
世^ニ 推^テ 專^ニ マニシ 昼^ノ 夜^ノ 時^ノ 刻^ヲ 別^ニ タス 人^ノ 及^ビ 其^ノ 害^ニ
室^ニ ニ 入^リ テ 密^ニ 賣^ル 品^ヲ 捜^ク 索^ス シ 以^テ 其^ノ 貪^ル ル 外^ニ 至^ル 大^ニ
シテ 一^ノ 人^ノ タリ 其^ノ 之^レ カ 採^ク 奪^ク ヲ 免^カ シタル者ナリ
故^ニ ニ 之^レ ヲ 呼^ビ テ 害^ノ 黨^ト 稱^シ タリ 又 外^ノ 國^ノ 品^ノ 運^ス
ク 其^ノ 輸^入 ヲ 禁^ズ 之^レ 若^ク ハ 莫^ク 大^ノ 重^ク 稅^ヲ 課^ス
レタリ 且^ツ 烟^草 之^レ 関^稅 アル 而^{シテ} 得^ル ハ 百^萬 兩^ヲ 以^テ
テ 是^ク 之^レ ヲ 一^ノ 仙^兩 西^人 之^レ 賣^讓 シ 千^七 百^六 十^八

年ニ至テ帝躬ヲ 珈^琲ノ 專^賣 權^ヲ 握^リ 燒^煙 用^並
ニ 建^築 用^ト モ 凡^テ 材^木 之^レ 係^ル 似^ク 專^賣 權^ニ 或^ハ
一^ノ 會^社 ノ 得^ル 而^{シテ} 一^ノ 社^ニ 限^リ

註(ニ) カ^リ ラ イ^ル 氏^カ フ^レ ダ^リ ヲ^ク 二^世 ノ
傳 佐^カ 六^卷 三^百 六^十 八^葉 ヨ^リ 三^百 七^十 三^葉
ノ 間^ニ 見^ユ

俄魯^ル 瑞^旬 及^ヒ 大^尼 同^高 法^ノ 景^況 抑^モ 俄^魯
始^リ 当^時 彼^公 明^{ナル} カ^サ リ^レ 亦^ニ 世^ノ 至^レ 德^極
美^{ナル} 制^御 ヲ 受^ケ 受^ク 凡^テ 專^賣 權^ヲ 紙^絶 ス^ル
ノ 美^政 之^レ 會^ヲ タ^リ 又^キ 千^七 百^六 十^六 年^ニ 於^テ 州

ル、ヨルニ、マカアトニ、氏カ英俄兩國ノ間ニ
交商盟約ヲ結成シタルヲ以テ兩國間ノ通商大
ニ隆盛ニ赴キタリ然レハ一方ニ於テ瑞甸、彼
會款ナルヲヤールス、亦十二世ノ々々ニ甚々窘
メラシ大尼国ハ近頃不思議ナル迷魂ヲ懐ヒテ
彼貿易權衡ノ奪取ヲ信シ専ラ工業ヲ起シ出入
ノ權衡ヲ恢復セントシテ祈リテカウ自ラ農事ヲ
怠リ巨万ノ財貨ヲ費シテ外國ヨリ製造者及ヒ
遊難者ヲ誘入シタリ然レハ自国人ノ精練ヲ有
セサルト又自然ノ便利ヲ欠キタルトシテ改

府ノ尽力更ニ莫益ヲ奏スルヲナク却テ反動
力ノ々々ニ大尼国ヲシテ古来未タ知ラサル如
ク仰外國トナシタリ

西班牙高法ノ景况

西班牙ハ曾テ戦争ノ術ニ

熟練セヌ又政界ノ法ヲ學ブヲナクシテ是レニ
久シク干戈ヲ事トシ敢テ英仏ニ對シテ利益ヲ
大ニ西洋ノ外ニ争ヒ自ラ種々ノ禁制及ヒ際限ヲ
違テタシト英仏勇テ之ヲ急セヌ專ラニ高業上
ノ利ヲ亞果利加大陸ノ上ニ占メタルヲ以テ内
唯、全国ノ廉契ヲ来タスノミナリトシテ改テ此頃

慚ク送夢ヲ破リ勇テ~~米~~亞米利加全国ノ宝財
ハ縦ニ追テ之ヲ取ルモ遂テ之ヲ待ツテ畢竟自
國ノ庫内ニ在ルハキノ投信ヲ棄テタリ然レハ
尚ホ遊リタル~~スレテ~~空シク望ム西印度ニ懐キ
凡テ自國人民ヲシテ彼地ニ列~~列~~交高スルノ自
由ヲ予エ以~~ハテ~~英國カ彼地ニ占有スル~~ル~~高權ヲ奪
ニテシテ格メタリト呈モ終ニ又其功ヲ見~~テ~~再ヒ
同一ノ目的ヲ果サニカタメ棉織及ヒ余他ノ棉
製品ヲ自國ニ輸入スル~~ル~~禁シタレト又此レ
天為ス知~~カ~~カリキ要スルニ西班牙ノ時々精神

ラ高業上ニ貴シタレト彼~~彼~~壓制ヲ極メ好シテ人
民ノ身体及ヒ財産上ニ搜索ノ權ヲ專マニスル
処ノ政事ヲ以テ馬ヲ能ク支~~支~~ノ安全ヲ又高法
上ニ保シタルヲ得~~レ~~ヤ而シテ又余響~~以~~刺~~工~~傳
エテ英國高人ノ上ニ及ヒタルヲ悲~~悲~~折スルノ声
ト為テ遠ク此英國ニマテ達シタリ
葡~~葡~~萄牙高法ノ景~~景~~况 葡~~葡~~萄牙ハ頻リニ過往ノ榮
譽~~譽~~ヲ空シク前夜~~前~~塵夢ヲ慕ヒ其宰相マアキス、分
カ、プロムバル公一人ノ了~~了~~ヲ以テ放テ一~~一~~擧ノ妙
手段ヲ以テ容易ク西~~西~~復~~復~~シテ再~~再~~其~~其~~本~~本~~ニ復ラシ

メニテヲ務メタリ蓋シ公才能ニ全シカリシコ
非ルハト星モ今更方シタル外ヲ顧ハ大ニ
寺時ノ要務ヲ撰視シタル者ト云ハサルヲ得ヌ
公惟テ彼國頽敗ノ真原ハ女人民ノ無學無識
泥教及ヒ奢慢ナルニ由ルカ故ニ今之ヲ恢復
セント欲スルニハ經濟ノ事當テ之ヲ他ニ托セ
ス自分一個ノ手ヲ以テ悉ク之ヲ理セサルコト
スト是レ亦一ノ誤見ナリキ又惟テ全體葡萄
列ノ土地ハ葡萄ヲ種ルコトヲ多クシテ穀物ヲ種ル
コト少ナシト故ニ忽チ令テ發シ此マテ種付タル

葡萄ヲ悉ク根絶セシメ之カ代ニ穀物ヲ蒔カシ
メケリ又惟テ凡テ葡萄ヲ種ル女人民ハ其跡志ノ術
大ニ伊太利人民ニ劣レリト故ニ忽チ伊太利人
ヲ雇ヒ入シ居ヒテ女人民ヲ以テ教テ之ヲ習ハ
シメタリ或ハ新成ノ都府アリトテ欲シテ
此マテ住居ヲ定メタル男女性テ其旧ヲ去テ
新ニ設カシメ又法律ヲ以テ食物及ヒ財品ノ價
ヲ定メ十分ニ專賣ノ權ヲ許シ及ヒ種々ノ特權
ヲ以テ會社ニ付與シタリ即チオホルト一會社
ニ許スニ最低ノ價ヲ以テ國門ニ産スル外ノ葡

葡^萄ハ悉ク買入レルノ權ヲ以テシタルニ忽チ
 之カタメ大ニ困厄ヲ起シ日ナラズシテ之ヲ悔
 ルニ至リタリ蓋シ是レ全ク外國商人ノ權理ヲ
 擲棄セハ商業^ノシテ外國焉ノ能ク之ヲ忍ブヘ
 キ最モ英國ノ如キハ曩キニ甘シテ彼^ノウスイ
 シノ盟約ヲ結ビ彼國ノ葡萄酒ヲシテ他國ニ出ス
 シハ最モ輕少ナル関稅ヲ以テ英國ニ入ラシメ
 ニ^テヲ表諾シタルニ服スヤ是レ實ニ至大ノ寬
 仁ト稱スヘシ然ルニ今回斯ル不法ノ処置ヲ行
 ヒ放テ佐ヲ以テ恩ニ酬ユルニ於テハ必ス其怨

要畧 (千七百六十二年ヨリ二十九年間)

抑モ七箇年争亂ノ末ヨク仙^ノ國大改命ノ時ニ至
 ルマテ正ニ三十年ノ星霜ヲ^單單メリ蓋シ此際ヤ
 初メテ英國ノ商業也後來ニ至テ文運ヲ突スルノ
 實ヲ蒔キタル^時ト云テ可ナリ左モ當時ニ在テ
 ハ全國ノ商業尙ホ狹域ノ内ニアリテ亦其百工
 ノ如キモ富ニ之カ後來ニ至テ隆盛スルノ基礎
 ヲ創築スルニ慇懃セルノミ然リト虽モ凡テ万
 物ノ盛衰ハ創メ其基礎ヲ建ル時如何ニ候スル
 夫以テ彼英國カ近世ニ至リ愈々商業及ヒ百工

ノ昌與ヲ極メ之カタ、他年ノ争乱及ヒ改革ニ
依テ生来シタル全国ノ廢弊ヲ恢復シタルノ功
蹟モ同シク、當時撒種ノ善良ナルト耕土ノ肥饒
ナルトニ依ラサル者ナシ、遺憾ラクハ此際奉テ
高聳ノ制タル未タ、昔日ノ苛酷ヲ脱セズ東鑄シ
專トシ制限ヲ嚴シシテ大ニ其進路ヲ阻塞シ
タリ、是レ實ニ至大ノ弊害ナリキト稱スヘシ、然
レ氏遂ニアダムスミス武力起ル。遇フテ卒然
以前ニ引換工真ニ富国原因ノ在ル外ニ達スル
ノ引道確且ツ全ナル者ヲ得ルニ至レリ

怒ッ喚起スヘキハ即チ自然ノ然ラシムル如ク
シテ蓋シ其結果ノ何レニ歸セシヤモ亦知ルヘ
キナリ

〔仙蘭西高法ノ景況〕

此時未タ英仙ハ間ニ於テ
交高ノ盟約ヲ方セサリシヲ以テ随テ西国ノ交
高ノ高ホ盛大ノ点ニ達セサリキ蓋シ曩キニ仙
蘭西ヨリ英國ニ就テ公平ナル交高ノ約義ヲ結
ハシ、コトヲ陳明セシ、其時同高ホ盛ニ保護税ノ
主義ヲ唱エ居タル頃ナリシヲ以テ竟ニ之ヲ義
諾セサリシナリ、今一方、於テ仙蘭ノ内勢ヲ顧

レハ彼巴利士平和盟約、致ス知ハ大ニ人民ノ
意ニ戻リ之ヲ為メ不遜ノ色ヲ現ハシテ言テ女提
ヲ知ラ同ケルヲモ巴利士平和ノ事々ハ是レ敗
北ノ自ラ来シタル如クシテ奈何トモ為ス可
ラスト星モ彼高法上仙同ノタメ大緊要ナル加
那ヲ捨テ放テ英同ノ攘リ渡シタルハ實ニ自
國高法ノ利益ヲ愛セサル者ナリト又英同ノ攘
リ渡シタル西印度地方ノ如キモ仙同人民ノ監
考ニ依レハ實地女價スル如ヨリハ遠カニ貴重
ナル者ト心得ラレタルカ如ク加フハ此頃仙

同ノ會計ハ十分ノ混雜ヲ窮メ人民ハ頗リニ餓
饑ノタメニ害大ラシ且ツ一二ノ淫賈ノ豫メ全
國ノ穀物ヲ買ヒ込ニ態ト之ヲビアルセル及ヒ
グアンサーニ送リ此処ヨリ再ヒ非常ノ利潤ヲ
得テ之ヲ輸入セルヲ以テ之カタメ困厄ノ甚シ
キヲ免ラズルノ際國債益々加ハリ千七百六十
九年ニ至テ又ラルルニ民ノ會計官トナリテ女
方ニ知悉ク作務危険ニ極メサル者ナキニ會セ
リ抑モ氏ノ女賊ニ来シレヤ直ニ之ヲ貸シタル法
ヲ布キ凡テ政府ニ借渡シタル金錢及ビ年金ノ

利子ヲ減少シタリ而シテ其藉口スル如ク聞ケ
ハ唯「元来ノ契約章条ニ於テ不当ナル事ヲ以テ
政府ニ归还スルカ故ナリト云フニ過カリキ也
上千七百七十一年ニ至リ凡テ農夫ニ貸与工^多
財亦ハ残ラズ之ヲ没収スルノ苛政ヲ行ヒ之カ
タメ許業ノ公司ヲ倒ス。及リ然レハ此特章
ニシテタルゴ一民政事上ニ一大変革ヲ起シ
「テ」企居タリキ折モタルゴ一氏ハ或ハ「録格
土人ノ家系ニ出テ曾テセトトナルピス」氏カ学
院「ア」テ神学ヲ学ヒ終ニ神学得業士ノ学行ヲ

得タリ然レハ後「経済表」ノ著述者クエスル「氏
及ヒ初テ彼
ヲ作リタルガインサニ、ケウ、カナルネ一氏ト交
ワテヨリ以降更ニ其志ヲ改メ其後ケケウ入不
川氏ヲ伴フテ諸省ヲ遊覽セシトキ專賣権ハ如
ク在テ社會ヲ傷害スル殊ニ甚シク且ハ交商ヲ
遊絶スルノ弊至ラサル如キヲ見テ瞭然一ノ
自由ノミ能ク人民ノ情態ヲ改良スヘキ者ナル
「テ」テ曉リ慨然感スル如クアリテ「與富配富論」ト題
サレタル一書ヲ著シタリ而シテハ其分十六世

ナル箴言

ノ位ニ即リニ及テ終ニ仙蘭國會計長トナワテ
多種ノ租稅ヲ廢シ外國ト穀物ヲ交商スルノ由
由ヲ開キ及ヒ全体仙國會計ノ面目ヲ改メテ以
テ大ニ其名ヲ輝カシメタリ然レモ氏女權ヲ操
ツテ僅ニ二年ニ過スレテ仙國ノ平和政畧及ヒ
儉約ノ大義モ氏ト共ニ之ヲ去リタリ

東印度通商ノ景況 英國ヨリ稍々遠隔ナル地
方ノ商業ヲ悉ク敎會社ノ占有スル如ク爲テ即
チ土耳其トノ通商ハ彼土耳其高社之ヲ獨操シ
又亞非利加トノ貿易ハ彼亞非利加會社之ヲ專

占シタリ而シテ當時高ホ彼南海會社ノ女取ヲ
失フニ至ラスレテ彼ババドリスベク會社及
ヒセイラリオン會社モ統テ存在シタリキ特ニ
女最モ大ナル者ハ彼東印度會社ニシテ爾レ千
七百六十三年方名ナルヲウツセー戦争ノ爲メ
結ビタム後チロルドリウイブ氏カ年々此ニ少ノ
交稅ヲモニゴル(印度王)ニ納ルカタメニベニ
カレバハア及ヒオリヤアノ諸省ヲ管理スル
ノ特權ヲ得タリシ以來之カ女大ニ勸励サレ
隨テ東印度股份ノ價ハ二百六十ポンドヨリ一

千ポンドマテに騰りたり此に於て政府モ作獨
ナル高法家ノ之ニ乘シテ種々ノ志ヲ施サシ
テ其志即チ千七百六十一年ヲ以テ協會社ノ
内莫ク捜索セシカクメ下院中ヨリ委員ヲ撰任
シ命シテ協會社ノ綱領ヲ驗シ取業ヲ糾シ及ヒ快
會社ト印度諸王トノ間ニ行ハルル如ノ盟約ヲ
問ハシメタリ而シテ其事終ルニ及テ即チ二様
ノ條例ヲ奏シ又一ハ會社一々年ニ一割以上ノ
配利金ヲ割当スルヲ禁シ又二ハ協會社ニ限
テス凡テ會社員タル者六ヶ月以上已シカ股分

ヲ所有セシニ依リテ其外遺贈婚姻若クハ遺棄
府ノ習慣ニ由テ之カ所有者トナリテ凡テ各社一
外遺投票ノ權ヲ有セサル者トセリ且ツ各社一
々年兩度以上ノ配利金ヲ奏スルヲ禁シタリ
又後又令ヲ奏シ彼東印度會社ヲ以テ又今回新
々ニ土地ヲ得タルノ報酬トシテ毎年四十万ポ
ンドノ金額ヲハ政府即チ公衆ニ納メシメ及テ
又高業ヲ盛ニナラシメニカクメ從前定メラレ
タル茶一斤毎ニ一シルリシケル稅課ヲ廢シタ
リ今協會社ノ原始ニ溯ラテ其微々タル數商人

其會議ニ臨テ投票スルノ權ヲ有セサル者トセリ

ノ會社タリシヨリ漸々勢ヲ重ネ終ニ其權カノ
印度諸王ヲ廢倒シ彼カ國內ニ於テ又一國自
主國ヲ作シ曾テ平和交商者タリ實ニ愛シ戰勝
者若クハ制理者ノ位置ヲ占ルル及ヒタルヲ禁
フシハ又変革ノ甚ヒキ者ナラスヤ

西印度通商ノ景況

抑モ西印度殖民地通商ノ
事タル實ニ英國ノ最大緊要件ナリ所以
ハ蓋シ英國ノ砂糖ハ悉リ之ヲ彼ニ仰キタシハ
ナリ然レモ當時改進ノ日尚ホ淺クシテ其景況
未タ盛大ト稱スルニ至ラズ其後テ種々ノ辛苦

ヲ経直ツ至極ノ窮策ヲ用キテ始テ之ニ達スル
ヲ得タリシナリ曾テ此時ニ先タウテ糖々暫ク
ニシテ一小論書ヲ世ニ行ハシタルヲアリテ其
述フニ処ニ依シハ英國未タドバコリニ殖民地
スセントルシヤハ不幸ニシテ之ヲ失ヒセント
ウインセント及ヒドミニカハ仙國ノ領スル且
ウアンチケアネガサセントトクリストフアル
モントセラウットバルミウケアングイラ及ヒス
パニツレタウレスハ皆テ後未改良ナルノ望
ニアリ又ハハマ諸島中現ニ英人住居ノ箇如ク

女教僅、田、過、ス、ト、是、即、チ、彼、論、書、矣、是、ノ
日、ニ、於、テ、西、印、度、景、況、ノ、一、班、ヲ、表、ス、ル、者、ニ、シ、テ、
又、是、ノ、依、リ、之、ヲ、去、ル、ト、尚、ホ、遠、カ、ラ、ハ、ル、外、ノ、当
時、ノ、情、態、ヲ、察、ス、シ、ハ、思、ヒ、半、ニ、過、ル、ヘ、シ、要、ス、ル
ニ、西、印、度、ノ、愈、々、英、国、ノ、タ、メ、ニ、大、関、係、ヲ、有、ス、ル
ト、ト、ナ、リ、タ、ル、ハ、尚、ホ、此、後、數、年、ヲ、経、シ、以、際、ナ、リ
然、レ、モ、英、国、政、府、早、ク、此、ニ、注、意、ス、ル、ハ、ア、ツ、テ、此
頃、既、ニ、女、殖、民、ヲ、懐、ケ、シ、カ、タ、メ、一、条、例、ヲ、發、シ、若
シ、凡、テ、他、国、殖、民、地、産、ノ、砂、糖、々、酒、或、ハ、糖、水、ヲ、以
テ、英、国、阿、爾、蘭、土、若、ク、ハ、亞、米、利、加、ノ、英、領、地、内、ニ

輸、入、ス、ル、者、ア、ル、ニ、於、テ、ハ、即、チ、船、ト、モ、ニ、其、船、荷
及、ヒ、番、具、ヲ、沒、收、ス、ヘ、キ、ト、シ、テ、令、シ、タ、リ、是、レ、固、ヨ
リ、製、糖、殖、民、者、カ、高、業、ヲ、勵、マ、シ、及、ヒ、之、ヲ、保、護、セ
シ、カ、タ、メ、ノ、策、措、シ、テ、千、七、百、六、十、一、年、ニ、至、テ
再、ヒ、条、例、ヲ、修、行、シ、タ、リ
奴、隸、賣、買、ノ、事、
此、時、ニ、當、テ、實、ニ、西、印、度、交、商、ノ
名、ヲ、汚、シ、タ、ル、者、ハ、即、チ、奴、隸、賣、買、ノ、事、ニ、シ、テ、女
未、ル、ヤ、甚、ク、久、シ、ク、當、時、流、行、ノ、一、大、罪、惡、ナ、リ、キ
抑、モ、^(五) 奴、隸、賣、買、ノ、事、々、ハ、初、葡、萄、牙、人、ノ、之、ヲ、起、シ
テ、ヨ、リ、西、班、牙、人、ノ、甘、シ、テ、之、ヲ、繼、ク、而、ト、ナ、リ、英

国人益々之ヲ進メタリ曩キニ千七百十三年彼
年嗣戦乱ノ後英國政府ハ抜高ノ事ヲ奉テ志
ウカヘカスサカセヨシヨシ
リ志リ之ヲ南海高ニ特許シ凡テ女専權ヲ握ラ
シメタリ鏡テ亞弗利加高社ノ女權ヲ同握スル
アリテ又電動クウガハルフリル及ヒフリストル
ノ三府互ニ抜高ヲ盛ニセンテ爭フリ然
リト虽モ元来亞弗利加ヨリ里奴ヲ携工來リ西
印度ニ於テ之ヲ賣却スルノ業ハ決シテ之ヲ名
ケテ高法ノ者トナス可ラス又初メ之ヲ捕工後
夫ニ之ヲ賣ルニ至ルマテノ全手段ハ一モ慘酷

殘忍ノ加エサル者ナク或ハ膚口ヲ得ニタタメ
ノミノ目的ニ向テ各名ノ戦争ヲ亞弗利加内地
ニ起シ或ハ奴隷ヲ獵セシカタメノミカ貪欲ヲ
逞フシテ海賊ニ委シタル遠征ヲ出し或ハ之ヲ
擄去シ或ハ之ヲ誘引シ或ハ巧避ノ辞ヲ用イ或
ハ詐橋ナル計策ヲ投ケルヲ罪ナキ亞弗利加人
ヲ捕工ハ之ヲ海濱ニ牽電シタリ而シテヤネ
ガル及ヒガムビヤ河口若クハ向凡及ヒ金鑛海
濱ニ於テ常ニ政羅巴^船ノ之ヲ待ツアリテ船中
英船最モ多ク彼奴隷ヲ受ルニ及テ二人ツノ之

ヲ連鎖し黒々女船中ニ積タリ恰モ柴薪ヲ積ム
カ如ク而シテ能ク女性命ヲ斯ル残酷ノ中ニ至
ラスル者ハ走ラズ西印度ニ携エ工ヲ僅テ苦役
ニ就シメタリ嗚呼開化ヲ以テ自ら傲ル如ク
政羅巴人ハ真ニ開化ノ何物タルヤ知ラサリ
之哉女侯スル如ク宗教ハ自ら之ヲ汚スルヲ耻
サリシ哉蓋シ後世ニ至テ世人ノ奉テ敬ムル如ク
ナリシモ又故ルルカナ然リト星モ晨キニ千七
百七十二年ニ於テ英同上院ニ於テ委員ヲ派シ
表シテ奴隷賣買ノ事情ヲ探ラシメタルトキハ

夫々時運ノ到来々サリシニヤ繼ヒ女先惡窮リ
ナク殖民地方ノ上等人位ニシテ最モ酷罪ニ當
ルベキヲ奈覚シタリト星モ立法ノ進テ之ヲ誅
得ルニ至ラサキ而シテ愈々情愛者ノ来テ
之カ肌ヲ鳴ラスノ声ヲ聞クニ及タルハ向ホ教
年ニ後ノ事ニシテ即チ千七百五十四年ニ至テ
彼友誼會ヨリ初テ核高ノ道理ニ背ケルヲ唱ス
来リ終ニ千七百七十二年英同上院ニ於テ明
然若シ奴隷ノ女豈ヤ英同上院ニ着ケルトキハ
別チ忽チ自由ノ民トナルハキ事ヲ宣告シタリ

有名ナルヲムマニ出ツル
トト奴隷ノ所出ニ出ツル
千七百八十五年ニ至リ

ノ一クストン氏カ人種賣買特ニ亞弗利加里

奴高ニ係シル論文ノ初テ世ニ出ルニ一遇ヒ其後

千二年ヲ経テ奴隷廢止ノ事一回會議ニ同キ其

前タル者ハケラムガ井ルニシヤ一氏サトウ井

ハ、ホーア氏及ヒトウマス、カウークワンニシテ

数輩ニシテウイハアルフオス氏及ヒ山井

ヤム、ヒツト氏等陰カニ其背後ニ立タリ而シテ

按社ノ印形ハ一里奴ノ鎖ヲ帶テ地ニ踏キ而テ

コ、拳テテ天ヲ仰キ哀ヲ求ルカ如キ有様ヲ表シ

290

タリ又其題目「オモホ人間」ヲ注カ同胞

ヲスヤノ教習ナリキ

註(五)千四百四十三年ニ葡萄牙人新島泰貝ノ

父メニ遠征セシトキ亞弗利加ノ海邊ニ於

テ摩囉人數名ヲ携達セタリヘシシ一皇之

ヲ聞テ速カニ其國ニ還ラシムヘキヲ命令

シタリト星天官吏之ヲ用ヒテ彼輩ヨリ求

ル処、土人ヲシテ之ヲ償ハシメ依テ黄金

若干ト里奴數名ヲ得タリ如斯クシテ一往

ノ好新高島偶々葡萄牙人カ貪欲ニ觸レ以

来彼ヲシテ忽々以心ヲ失フに至リて人
 タリ世後ヲアリスノ商人數名新々巨工
 ノ許可ヲ得亞弗利加海濱ニ於テ彼等雖人
 ト交高スルノ名ヲ藉リテ兩三ノ船ヲ
 アル島ニ碇泊シ女實之高ノ代ニ人
 テ戦争ヲ仕掛ケ意ハ出十五人ヲ生捕メ
 リ世後又アルグイン島ニ寄テ一ノ城ヲ
 築キ此ノ女携エタル製品ヲ積ミ海濱ニ
 奴ト交換シタリ十五百八五ニ至リ西班牙
 へ能ク至

ハニ港ニサント

口ニバニノ許妻ノ里ニ奴
 ヒタリ又千六百八十九年ニ於テ
 西班牙政府ニ向テジャマカ島ヨ
 ヲ携エ西印度西海ノ地方ニ給セム
 ヲ約シタリ次キ一千七百三十三ト西
 班牙トノ条約ニ依リ再ヒ英
 三十年ノ間毎年ジャマカ島ニリ四千
 百人ノ里奴ヲ西班牙領ノ亞弗利加ニ送ラ
 ントヲ兼措シタリ此ノ千七百五十二年

ヨリ千七百六十ニ千マテノ間ニピア
 カ島ニ輸入サレタル豆奴ノ数都合一
 入ニシテ各々三十ポントヲ以テ五
 シタリ如斯キヲ以テ千七百六十
 ガムピヤ知府ニ報告セラルル事
 同一個住民ノ指船ニ乗リ去リシタ
 ル者其数七万人ナリト述ビシタリ
 関税ノ事 当時最モ英國ノ外商ヲ妨
 者ハ此 関税ノ制ナリ
 丁スニテ輸出ノ

権ノ收テニ後
 穀乃 貨ノ制ニ課ルヲ以テ
 たり其後高キ完備税一ナリ其ノ後法ニ設
 制ヲ受ル所ノ物貨率ケテ散フ可ラス又
 金取立方ニ至ルハ最モ混雑ヲ極メタリ
 新古扶助金ノ制三分一ヲ三分二夫如キ
 小税及ヒ追加税ノ制ノ如キ實ニ事
 者ノ人ニ限リテキ煩苛ヲ兼テシテ又新
 ノ制ニ當テ至ラサシムルハ其ノ國
 之カ制ヲ受シタル者皆シト稀シナリキ此
 年葡萄酒

今比美ナキ嚴酷ヲ極メタル航海法在ヒ戰時平
 時ヲ問ハス戰者若クハ海賊ノタメニ掠奪ナリ
 ハノ憂アリシヲ見シハ當時英國ノ通商ノ實
 不滿是ヲ極メタルヲ知ルヘシ
 「高法局ノ事附之カ職掌」ハ天高去局ノ事
 此頃ヲ去ルノ久シクは成業スル者ニシ
 テ初メ千六百三十六年ヤールズ第一世ノ女
 ニ創業サレテ後クロムウ井ル公ノタメニ再
 起ナリ
 依^中專^中ノ列國ノ商業及ヒ航海
 是メ且 維理
 是ノ旨ノ法也

是ノ宗旨ニシテハ長クシテハ内國ノ機宜教名ト
 女子ノシテ之カ長クシテハ内國ノ機宜教名ト
 並ニ勸ヨルカニウカウスルヤアルウスドガア及
 ヒ他ノ諸地方ヨリ二十余名ノ高人ヲ監ス
 輔ケシメタル千六百六十年ニ至リ千ヤールズ
 才二世英國全商業ヲ統括スルニ至リタル
 高法議會ナル者ヲ與シ又外國駐在議會ヲ立タ
 ンルニテ此兩者ハ千六百七十二年ニ至テ相ヒ
 合併サレタリ然リ小星千七百八十二年ニ及
 テロンドセルボン氏及ヒモストルバアーグ氏

一 駁議ニ依リ竟ニ高法局ヲ廢シ内閣ヨリ委員
 ヲ撰テ之ニ代ラシメ内外諸港出入ノ物貨上ニ
 課スル処ノ関稅ノ計算ヲ司ラシメ在ラザル貿易權
 衡ノ主義ニ依テ内外通商ノ利害ヲ察シ之ヲ政
 府ニ報告セシメ加フルニ英國殖民地地方ノ女
 且ツ一般ニ英吉利斯全國ノ女々ニ有益ナル高
 業ヲ見出シメ以テ之殖民地地方ノ高業ヲ示マサレ
 一 一 務ルルニ及リ而シテ今日存在スル知ノ高法局
 制ハ初メ一十七百八十六年内閣ノ根據ヲ以テ
 制定セラルルニ及リ然レモ其數年ノ間局ニ

未タ全副ノ經濟界ニ如何ニ及ラズ置スヘキヤ
 ノ異 疎ニシテ高法局ノ不長ヲ以テ立法ノ委
 ヲ左右スヘキ丈ケノ十分ノ権力ヲ有セザリキ
 今日彼高法局ノ職掌ハ種々ノ事件ニ涉リ即
 チ殖民地通商ノ利益ヲ察シ之ヲ殖民地地方ノ書
 記官ニ報知シ又関稅及ニ船稅ノ事ニ関シテハ
 即チ之ヲ彼大藏省ニ達白シ又通商盟約ノ事ニ
 付テ外國ノ書記官ト通信シ又諸地方會ノ議案
 ヲ報告シ又高業航海及ニ鐵道ノ統制ヲ監督スル
 例ヲ諸學百工ノ事ヲ省ニ諸奏明ノ記録ヲ司ル

レ
95
元

ノ戦務アリ勇テ千八百六十四年ニ於テ下院ノ
委員ヨリ外國通商ノ事ニ関シ外務省ト商法司
トノ間ニ行ハル、而シテ關係ニテ輕便ニ卦カレ
ナシトテ舊メタリ

註六ハ、ア、ク、式、又、千、七、百、八、十、年、以、テ、金、造

幣、局、ヲ、廢、シ、女、司、ト、ル、如、ク、以、テ、英、格、利、斯、銀、行

ノ、手、ニ、委、ネ、シ、テ、其、議、ニ、タ、リ、也、此、事

同、年、内、閣、ニ、於、テ、付、論、サ、レ、タ、ル、經、済、改、革、決

議、ノ、由、ニ、由、リ、休、止、サ、レ、タ、リ、ト、ナ、レ、リ

